

Software AG Installer の使用

October 2017

このマニュアルは、Software AG Installer およびそれ以降のリリースに適用されます。

このマニュアルに含まれる仕様は、変更されることがあります。変更内容については、それ以降のリリースノート、または次のエディションで報告されます。

Copyright © 2010-2017 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

Software AG およびすべての Software AG 製品の名前は、Software AG, Software AG USA Inc.、またはその子会社やサイゼンサーの商標または登録商標です。このマニュアルに記載されたその他の企業名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

Software AG とその子会社が所有する商標および特許に関する詳細情報は <http://softwareag.com/licenses> にあります。

本ソフトウェアはサードパーティ製品の一部を含む場合があります。サードパーティの著作権情報、ライセンス条項、追加の権利や制約については、「License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products」を参照してください。特定のサードパーティのライセンス条項や制約については、「License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products」の「Legal Notices」の E 項を参照してください。これらのドキュメントは、<http://softwareag.com/licenses> またはライセンス製品のルートインストールディレクトリから取得できる製品ドキュメントの一部として参照できます。

Software AG のライセンス許諾書によって特別に明示されていない限り、使用、コピー、転送、公開および開示は禁止されています。

ドキュメント ID: SAG-INSTLR-OCT2017REL-20171017_JA

目次

| | |
|-------------------------------------------------|----|
| このマニュアルについて..... | 7 |
| 表記規則..... | 7 |
| オンライン情報..... | 8 |
| 概念..... | 9 |
| Software AG Installer および Uninstaller..... | 10 |
| インストール方法..... | 10 |
| Empower からの製品インストール..... | 10 |
| インストールイメージを使用した製品インストール..... | 10 |
| インストールスクリプトを使用した製品インストール..... | 11 |
| 製品インストールまたはイメージ作成の迅速化..... | 12 |
| イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成..... | 12 |
| アンインストール方法..... | 13 |
| インストールとアンインストールのモード..... | 13 |
| JDK のサポート..... | 13 |
| ポート..... | 14 |
| ログ..... | 14 |
| インストールおよびアンインストールに成功するための重要な要件および推奨事項..... | 15 |
| マシン要件..... | 16 |
| アクセス要件..... | 16 |
| Installer/Uninstaller とインストール/アンインストールの要件..... | 17 |
| ダウンロードのトラブルシューティング..... | 18 |
| GUI を使用したインストール..... | 21 |
| Windows システムでの Installer の起動..... | 22 |
| Mac OS X またはその他の UNIX システムでの Installer の起動..... | 22 |
| 最初のパネルの表示..... | 24 |
| プロキシサーバを使用したインストール..... | 24 |
| リリース、ユーザ名およびパスワードの指定..... | 25 |
| インストールディレクトリの指定..... | 26 |
| インストールする製品の選択..... | 28 |
| インストールする Language Pack の選択..... | 30 |
| ライセンス許諾書の確認..... | 30 |
| 製品の設定..... | 30 |
| 確認とインストール..... | 31 |
| インストールイメージの使用..... | 31 |
| 単一のオペレーティングシステム用のイメージの作成..... | 32 |
| イメージからのインストール..... | 33 |
| 既存のイメージを使用した製品インストールまたはイメージ作成の迅速化..... | 33 |
| インストールスクリプトの使用..... | 35 |
| スクリプトの作成..... | 35 |

| | |
|-------------------------------------------------------------------|----|
| 既存のスクリプトの編集..... | 36 |
| GUI を使用したスクリプトからのインストール..... | 36 |
| Windows システムでコマンドラインを使用したスクリプトからのインストール..... | 37 |
| イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成..... | 38 |
| イメージ生成スクリプトの作成..... | 38 |
| イメージの生成..... | 39 |
| ログオプションの変更..... | 40 |
| コンソールモードを使用したインストール..... | 43 |
| Installer の起動..... | 44 |
| プロキシサーバを使用したインストール..... | 45 |
| リリース、ユーザ名およびパスワードの指定..... | 45 |
| インストールディレクトリの指定..... | 45 |
| インストールする製品の選択..... | 46 |
| インストールする Language Pack の選択..... | 47 |
| ライセンス許諾書の確認..... | 47 |
| 製品の設定..... | 47 |
| 確認とインストール..... | 47 |
| インストールイメージの使用..... | 47 |
| イメージの作成..... | 48 |
| イメージの内容の表示..... | 49 |
| イメージの内容の検証..... | 49 |
| イメージからのインストール..... | 49 |
| 既存のイメージを使用した製品インストールまたはイメージ作成の迅速化..... | 49 |
| インストールスクリプトの使用..... | 50 |
| スクリプトの作成..... | 50 |
| 既存のスクリプトの編集..... | 51 |
| Mac OS X システム、その他の UNIX システムまたは Windows システムでのスクリプトからのインストール..... | 51 |
| イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成..... | 52 |
| イメージ生成スクリプトの作成..... | 52 |
| イメージの生成..... | 52 |
| ログオプションの変更..... | 53 |
| アンインストール..... | 55 |
| 概要..... | 56 |
| 操作を開始する前に..... | 56 |
| Uninstaller の起動..... | 57 |
| ローカルマシンまたはリモートマシンにある選択した製品のアンインストール..... | 57 |
| ローカルマシンまたはリモートマシンからのすべての製品のユーザ入力なしでのアンインストール..... | 57 |
| GUI モードでのすべての製品のサイレントアンインストール..... | 58 |
| コンソールモードでのすべての製品のサイレントアンインストール..... | 59 |
| スクリプトを使用したアンインストール..... | 59 |
| GUI モードでのスクリプトを使用したアンインストール..... | 59 |
| コンソールモードでのスクリプトを使用したアンインストール..... | 59 |
| スクリプトの作成..... | 59 |

| | |
|------------------------|----|
| 既存のスキプの編集..... | 60 |
| スクリプを使用したアンインストール..... | 60 |
| Windows の使用上の注意..... | 60 |



このマニュアルについて

このマニュアルでは、マシンで Software AG Installer のこのリリースを使用するための準備を行う方法、Software AG Installer および Software AG Uninstaller を使用して製品のインストールとアンインストールを行う方法について説明します。

Software AG Installer のこのリリースでは、Software AG 製品のさまざまなリリースのインストールがサポートされます。そのため、このマニュアルはサポートされるすべての製品リリースの Software AG 製品インストールガイドと共に使用します。製品インストールガイドでは、製品固有の準備、インストールおよびアンインストールの手順について説明します。ただし、Software AG Installer のこのリリースで提供される機能は、その日付以前にリリースされた製品をインストールすると、利用できない可能性があります。

表記規則

| 規則 | 説明 |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 太字 | 画面上の要素を表します。 |
| 縮小フォント | <code>folder.subfolder:service</code> という規則を使用して webMethods Integration Server 上のサービスの保存場所を表します。 |
| 大文字 | キーボードのキーを表します。同時に押す必要があるキーは、プラス記号 (+) で結んで表記されます。 |
| 斜体 | 独自の状況または環境に固有の値を指定する必要がある変数を表します。本文で最初に出現する新しい用語を表します。 |
| モノスペース フォント | 入力する必要があるテキストまたはシステムから表示されるメッセージを表します。 |
| { } | 選択肢のセットを表します。ここから 1 つ選択する必要があります。中カッコの内側にある情報のみを入力します。{ } 記号は入力しません。 |
| | 構文行で相互排他的な 2 つの選択肢を区切ります。いずれかの選択肢を入力します。 記号は入力しません。 |
| [] | 1 つ以上のオプションを表します。大カッコの内側にある情報のみを入力します。[] 記号は入力しません。 |

| 規則 | 説明 |
|-----|------------------------------------------------------------------------|
| ... | 同じ種類の情報を複数回入力できることを示します。情報だけを入力してください。実際のコードに繰り返し記号 (...) を入力しないでください。 |

オンライン情報

Software AG マニュアルの Web サイト

マニュアルは、Software AG マニュアルの Web サイト ([「http://documentation.softwareag.com」](http://documentation.softwareag.com)) で入手できます。このサイトでは Empower クレデンシャルが必要です。Empower クレデンシャルがない場合は、TECHcommunity Web サイトを使用する必要があります。

Software AG Empower 製品のサポート Web サイト

製品情報は、Software AG Empower 製品のサポート Web サイト ([「https://empower.softwareag.com」](https://empower.softwareag.com)) で入手できます。

機能および拡張機能に関するリクエストの送信、製品の可用性に関する情報の取得、**「製品」** のダウンロードを実行するには、Products に移動します。

修正に関する情報を取得し、早期警告、技術論文、Knowledge Base の記事を読むには、**「Knowledge Center」** に移動します

Software AG TECHcommunity

マニュアルおよびその他の技術情報は、Software AG TECHcommunity Web サイト ([「http://techcommunity.softwareag.com」](http://techcommunity.softwareag.com)) で入手できます。以下の操作を実行できます。

- TECHcommunity クレデンシャルを持っている場合は、製品マニュアルにアクセスできます。TECHcommunity クレデンシャルがない場合は、登録し、関心事の領域として [マニュアル] を指定する必要があります。
- 記事、コードサンプル、デモ、チュートリアルにアクセスする
- Software AG の専門家によって承認されたオンライン掲示板フォーラムを使用して、質問したり、ベストプラクティスを話し合ったり、他の顧客が Software AG のテクノロジーをどのように使用しているかを学んだりすることが可能です。
- オープンスタンダードや Web テクノロジーを取り扱う外部 Web サイトにリンクできます。

1 概念

| | |
|-----------------------------------------------|----|
| ■ Software AG Installer および Uninstaller | 10 |
| ■ インストール方法 | 10 |
| ■ 製品インストールまたはイメージ作成の迅速化 | 12 |
| ■ イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成 | 12 |
| ■ アンインストール方法 | 13 |
| ■ インストールとアンインストールのモード | 13 |
| ■ JDK のサポート | 13 |
| ■ ポート | 14 |
| ■ ログ | 14 |

Software AG Installer および Uninstaller

この章では、Software AG Installer の概念と、Installer の今回のリリースで利用可能な機能について説明します。

重要: Software AG Installer の各リリースでは、Software AG 製品のさまざまなリリースのインストーラーがサポートされます。ただし、Software AG Installer のこのリリースで提供される機能は、このリリース以前にリリースされた製品をインストールしている場合、利用できない可能性があります。Software AG Installer のリリース日を表示するには、Installer の [About] の情報を参照してください。

Installer を使用する詳細な手順については、このマニュアルの他の章を参照してください。

インストール方法

Software AG Installer では、次の方法で製品をインストールできます。

- Software AG Empower Product Support website から最新リリースの製品を 1 台のマシンに直接インストールします。Empower は、常に最新の製品リリースのみを提供しています。
- 製品を Empower からインストールイメージにダウンロードし、1 台または複数のマシンに、このイメージの一部またはすべての製品をインストールします。
- Empower またはインストールイメージから製品をインストールするインストールスクリプトを作成し、1 台または複数のマシンに、ユーザの入力なしで製品をインストールします。

Empower からの製品インストール

Software AG Installer を実行して Empower に接続することで、製品をインストールできます。最新リリースの製品をインストールする場合、およびインストール先のマシンが 1 台で、企業ファイアウォールの外部にアクセスできる場合に、この方法を使用することができます。

Empower からインストールする場合は、選択した製品の依存性が自動的に管理されます。インストールする製品を選択すると、選択した製品に必要な追加製品が自動的に選択され、依存する製品を選択解除することなく、これらの追加製品を選択解除することはできません。また、ターゲットインストールディレクトリの値、製品のポートの値、ライセンスファイル、データベース接続パラメータなどの、マシンや製品固有の情報も要求されます。

インストールイメージを使用した製品インストール

製品を Empower からインストールイメージにダウンロードし、このイメージを使用して、1 台または複数のマシンに製品をインストールできます。イメージからインストールするときは、各マシンに必要な部分のみインストールできます。この方法は、次のような場合に使用できます。

- インストール先のマシンが企業ファイアウォールを越えて外部にアクセスできない（つまり、Empower に接続できない）場合。

- 時間の間隔をあけてインストールする場合でも同じ製品リリースをインストールできるように、製品ごとに特定のリリースを保存しておきたい場合。Empower は最新リリースの製品のみを提供します。したがって、現在使用可能な製品リリースは、将来に新しいリリースで置き換えられる可能性があります。インストールイメージには、常に Empower からイメージにダウンロードした製品リリースが含まれています。

重要: Software AG は、時間の間隔をあけてインストールしても製品インストール間で一貫性を確保できるように、イメージの作成をお勧めします。

- 複数のマシンにすべての製品または一部の製品をインストールする場合で、なおかつ、Empower からダウンロードする時間を回避したい場合。

イメージを作成するには、Software AG Installer を実行して Empower に接続し、イメージにダウンロードする製品を選択します。任意のオペレーティングシステムから、別のオペレーティングシステム用のイメージを作成できます。たとえば、Windows システムから Solaris システム用のイメージを作成できます。したがって、イメージを作成するときにはローカルマシンは無視されます。これは次のことを意味します。

- イメージに含める製品を選択した場合、選択した製品が必要とする追加製品は自動的に選択されません。その代わりに、必要な製品が一覧表示され、それらを選択するかどうか聞かれます。インストール先のディレクトリが空の場合は、すべて選択します。インストール先のディレクトリに、すべての、または、一部の必要な製品が含まれていて、イメージのサイズをなるべく小さくしたい場合は、最初にすべてを選択するように操作してから、インストール済みの製品の選択を解除するか、または、すべてを選択しないように操作してから、必要な製品のみを手動で選択することができます。
- ターゲットインストールディレクトリの値や製品のポートの値などの、マシン固有の情報は要求されません。マシン固有の情報は、各ターゲットマシン上にイメージからインストールする際にユーザが指定します。
- 製品のポートの値、ライセンスファイル、データベース接続パラメータなどの、製品固有の情報は、イメージ作成中に要求されません。製品固有の情報は、各ターゲットマシン上にイメージからインストールする際にユーザが指定します。

イメージは圧縮ファイルとして保存されます。各圧縮ファイルには、ImageContents.html という名前の HTML ファイルが含まれ、それを開いてイメージの内容を確認することができます。

インストールスクリプトを使用した製品インストール

Empower またはインストールイメージからの製品のインストールを自分で記録し、その記録 (スクリプト) を使用して、1 台または複数のマシンに製品をインストールできます。スクリプト内のすべての製品が自動的に各マシンにインストールされます。同じ製品インストールを複数のマシンに実行する場合、または、製品インストールを自動化する場合に、この方法を使用することができます。

Empower からインストールしながらスクリプトを作成した場合、スクリプトには Empower のユーザ名とパスワードが含まれ、スクリプトは製品の最新リリースを参照します。スクリプトからインストールするときに、参照される製品リリースが使用できる必要があります。使用できない場合、スクリプトは失敗します。

イメージからインストールしながらスクリプトを作成した場合、スクリプトはイメージ内の製品リリースを参照し、スクリプトにはイメージの場所が含まれます。スクリプトからインストールするときに、イメージが同じ場所に存在している必要があります。存在しない場合、スクリプトは失敗します。

スクリプトからインストールする場合は、以下の理由でターゲットマシンがスクリプトを作成したマシンと同じである必要があります。

- スクリプトの作成時に、ローカルマシンのインストールディレクトリを指定します。Installer はそのディレクトリをモデルとして使用します。モデルインストールディレクトリに必要な製品が含まれている場合、スクリプトでは、すべてのターゲットインストールディレクトリにもその必要な製品が含まれていると想定されます。含まれていない場合、スクリプトは失敗します。
- スクリプトを作成するときには、ターゲットインストールディレクトリ、ポート値などの、マシン固有のすべての値と、ライセンスファイル、データベース接続パラメータなどの、製品固有のすべての値を指定します。スクリプトはユーザの入力なしで実行されるため、スクリプトからインストールするときに、これらの値を変更することはできません。これらの値がすべてのターゲットマシンで正確でない場合、スクリプトは失敗します。

既存のスクリプトを編集できます。既存のスクリプトを編集し、別の名前で作成して、新しいスクリプトを作成することもできます。

製品インストールまたはイメージ作成の迅速化

(スクリプトのイメージからではなく) Installer から製品をインストールし、インストールイメージを作成する場合は、Installer は Empower から製品をダウンロードします。インストールするか新しいイメージに含めたい製品の一部が既存のイメージに含まれている場合は、その既存イメージを Installer に指定することで、パフォーマンスが向上します。Installer は、これらの製品を Empower からダウンロードする代わりに既存のイメージから取得します。

必要な製品が含まれている任意の既存のイメージを指定できます。作成されたイメージのオペレーティングシステムは関係ありません。

イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成

イメージ生成スクリプトから複数のオペレーティングシステム用イメージを生成できます。イメージ生成スクリプトには、選択する製品のリストだけが含まれます。このリストは、さまざまなイメージを作成する際のマスターリストにしてください。スクリプトを作成するときは、製品の最大数をサポートするオペレーティングシステムを選択します。ほとんどの製品で、そのようなオペレーティングシステムは Microsoft Windows 64 ビットです。

イメージ生成スクリプトでは、製品のリリース番号を指定しません。イメージ生成スクリプトからイメージを生成するときに、Installer は Empower に接続し、選択した製品のその時点での最新リリースをイメージにダウンロードします。

メモ: イメージ生成スクリプトを使用して製品をインストールすることはできません。これはインストールスクリプトではありません。イメージ生成スクリプトは、複数のオペレーティングシステム用のイメージを生成する場合にのみ使用できます。

アンインストール方法

製品は以下の方法でアンインストールできます。

- 指定した製品をローカルマシンからアンインストールします。
- すべての製品をローカルマシンからアンインストールします。
- 指定した製品のアンインストールスクリプトを作成し、同じ製品がインストールされた複数のマシンで実行できます。

インストールとアンインストールのモード

Software AG Installer および Software AG Uninstaller は、以下に示すさまざまなモードで実行できます。

| モード | 説明 |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グラフィカル ユーザインタ フェース (GUI) | GUI を使用し、Installer を使用して、Software AG 製品でサポートされているすべてのオペレーティングシステムに、イメージやスクリプトをインストールまたはアンインストールできます。UNIX システムの場合、X Window 環境が必要です。 |
| | メモ: Software AG Installer は、Windows システムの互換モードでは実行できません。たとえば、Installer は Windows Vista または Windows 7 の Windows XP 互換モードでは実行できません。 |
| コンソールモー ド | コンソールモードを使用し、Installer を使用して、Software AG 製品でサポートされている Windows 以外のすべてのオペレーティングシステムに、ローカルまたはリモートで、イメージやスクリプトをインストールまたはアンインストールできます。また、コンソールモードを使用し、スクリプトを使用して、Windows オペレーティングシステムに、インストールまたはアンインストールできます。 |

JDK のサポート

Windows システムの場合、Software AG Installer の起動に使用する exe ファイルには、Installer の実行に使用される JRE が含まれます。Mac OS X システムと dmg ファイルについても同様です。その他すべての UNIX オペレーティングシステムの場合、このマニュアルの後半で説明するように、Installer を実行するために JRE をユーザ自身でインストールする必要があります。

どの場合でも、Software AG Installer によって、製品専用の JDK が `Software AG_directory¥jvm` ディレクトリにインストールされ、それを使用するように製品と Software AG Uninstaller が設定されます。

サポートされている JDK の詳細については、Software AG Documentation Websiteで製品のシステム要件を参照してください。

重要: インストールされた JDK のベンダーが提供するメンテナンス更新を適用しないでください。インストールされた JDK の更新が必要な場合は、Software AG から修正の形式で更新を提供します。

Software AG Installer によってインストールされた JDK には、Java Cryptography Extension (JCE) Limited Strength Jurisdiction Policy File が含まれています。製品を FIPS モードで実行できるようにしたり、256 ビット AES などのアルゴリズムを使用したりするには、JVM で JCE Unlimited Strength Jurisdiction Policy File を使用する必要があります。これらのファイルを該当する Web サイトから Integration Server の実行に使用する `jre/lib/security` ディレクトリにダウンロードし、ベンダーのマニュアルの手順に従ってファイルをインストールしてください。

ポート

Software AG Installer は、HTTP ポート 80 を使用してインターネット上のファイルをダウンロードします。SSL を使用する場合は、ポート 443 を使用します。

ログ

デフォルトでは、インストール中に発生したエラーは、Software AG Installer によって `Software AG_directory/install/logs` ディレクトリにあるファイル `installLog.txt` に書き込まれます。アンインストール中に発生したエラーは、Software AG Uninstaller によってファイル `uninstallLog.txt` に書き込まれ、そのファイルが同じディレクトリに保存されます。書き込まれる情報の量を増減したり、別のファイル名およびディレクトリを指定したりできます。また、ログファイルに加えて、標準出力や標準エラーにも書き込むよう指定できます。

Software AG Installer は、製品、バージョンおよびビルドに関する情報を、`Software AG_directory/install/history` ディレクトリにある監査履歴ログファイル `history.txt` に書き込みます。

Software AG Installer は、プロビジョニング操作に関する情報を、`Software AG_directory/install/profile/logs` ディレクトリにあるログファイル `sag-osgi.log` に書き込みます。

2 インストールおよびアンインストールに成功するための重要な要件および推奨事項

| | |
|---------------------------------------------------|----|
| ■ マシン要件 | 16 |
| ■ アクセス要件 | 16 |
| ■ Installer/Uninstaller とインストール/アンインストールの要件 | 17 |
| ■ ダウンロードのトラブルシューティング | 18 |

マシン要件

- Installer を実行するマシンに少なくとも 1 GB の利用可能な仮想メモリがあり、マシンのシステムの temp ディレクトリ (Windows の場合) または一時ディレクトリ (UNIX の場合) に少なくとも 200 MB の空きディスクスペースがあることを確認します。
- インストールイメージを作成する場合は、Installer を実行するマシンで、イメージファイルが含まれるファイルシステムの空きディスクスペースに、インストールイメージの 2 倍以上のサイズが必要です。たとえば、1 GB のイメージ MyImage.zip を C:¥MyDirectory に作成する場合、ファイルシステム C:¥ に 2 GB 以上の空きディスクスペースが必要です。これは、Installer によって、製品がイメージと同じ名前のディレクトリ (たとえば、C:¥MyDirectory¥MyImage) にダウンロードされてから製品がイメージに追加されるためです。したがって、Empower との接続を切断した場合、中断したところから再開できます。イメージのサイズを予測するには、製品選択ツリーでイメージに含める製品を選択した後、(イメージに対する) [Free Space Required] および (ファイルシステム内の) [Free Space Available] の値を確認します。
- Installer を実行するマシンのシステムの temp ディレクトリ (Windows の場合) または一時ディレクトリ (UNIX の場合) に、十分な空きディスクスペースがあることを確認します。インストールイメージからインストールを行う場合は、そのディレクトリに 200 MB の空きディスクスペースが必要です。インストールイメージからインストールを行う場合は、そのディレクトリにイメージのサイズに 200 MB を加えたサイズの空きディスクスペースが必要です。たとえば、イメージが 200 MB の場合、ディレクトリに 400MB 以上の利用可能なディスクスペースが必要です。
- Windows システムにインストールする場合、Installer を実行するマシンに最新の Windows Update がインストールされていることを確認してください。Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2 では、2014 年 4 月にリリースされた Microsoft Update KB2919355 がインストールされていないとインストールが失敗します。
- Windows システムでは、Software AG 製品はローカルのハードドライブにのみインストールできます。ネットワークマウントドライブに製品をインストールすることはできません。
- UNIX システムでインストールまたはアンインストールする場合、GUI を使用して実行するには、ローカルマシンに X11 ディスプレイサーバがインストールされている必要があります。

メモ: 異なる X11 ディスプレイサーバを使用した場合の結果はさまざまです。ある X11 ディスプレイサーバで問題が発生した場合、Software AG では、別の X11 ディスプレイサーバを試すことをお勧めします。たとえば MobaXterm は、Software AG Installer で正常に使用されたことがあります。

アクセス要件

- Windows システムにインストールする場合、インストールを実行するユーザアカウントを作成し、そのアカウントに Windows システムの管理者特権を付与し、そのユーザとしてインストールします。Windows 8、Windows Server 2012 またはより新しいシステムにおいて、exe ではなく jar ファイルを使用して Installer を起動する場合は、システム管理者特権を持つコマンドシェル内から、jar ファイルを実行する必要があります。インストールユーザが、インストールするすべてのファイルを所有します。

- UNIX システムにインストールする場合、インストールを実行する非 root のユーザアカウントを作成し、そのユーザとしてインストールします。インストールユーザが、インストールするすべてのファイルを所有します。
- 新しい製品を (同じリリースの Software AG 製品を含んでいる) 既存の Software AG インストールディレクトリにインストールする場合は、同じユーザアカウントを使用して新しい製品をインストールします。
- このユーザアカウントには、製品をインストールするディレクトリへの完全な読み取り/書き込み権限が必要です。
- 製品をアンインストールする場合は、同じユーザアカウントを使用します。

Installer/Uninstaller とインストール/アンインストールの要件

- 共有システムリソースの問題を回避するには、マシンで一度に 1 つの Installer インスタンスのみを実行します。マシンで別の Installer インスタンスを起動する前に、製品インストールガイドに記載されているインストール後タスクを含む製品インストール全体が完了し、Installer インスタンスがシャットダウンされたことを確認します。
- 製品またはファイルの競合を避けるために、Installer と Software AG Update Manager を同時に実行しないでください。
- Software AG から説明があった場合を除き、Software AG Installer または Software AG Update Manager によってインストールまたは作成されたファイルを変更または削除しないでください。Software AG_directory¥install または UpdateManager ディレクトリからファイルを変更または削除しないでください。これらのディレクトリには、Installer および Software AG Update Manager によって使用される重要なメタデータが含まれています。
- Installer によって製品用の JDK がインストールされます。JDK のベンダーが提供するメンテナンス更新を適用しないでください。更新が必要な場合は、Software AG から修正の形式で更新を提供します。
- 1 つのインストールディレクトリに 1 つのリリースの製品のみをインストールします。同じインストールディレクトリに異なるリリースの製品を混在させないでください。これはサポートされていないため、問題が発生するか、機能にアクセスできなくなります。
- 製品のインストールイメージを作成し、内部ネットワークに保存します。インストールを予定しておりライセンス許諾書でカバーされているオペレーティングシステムごとに、イメージを作成してください。イメージを保存しておくことで、時間の間隔をあけてインストールする場合でも一貫性を保つことができます。また、Installer では最新の製品リリースのみが提供されますが、インストールイメージにはダウンロードした製品リリースが含まれています。さらに、イメージからインストールすると、WAN トラフィックを削減して、インストールを高速化できます。
- 製品のインストールに使用した Installer によってインストールされた Uninstaller を使用して、製品をアンインストールします。たとえば、2015 年 4 月版 Software AG Installer を使用して製品をインストールした場合は、2015 年 4 月版 Software AG Uninstaller を使用して製品をアンインストールします。

- このマニュアルでは、インストールおよびアンインストールの一般的な手順について説明します。追加の製品固有のインストールおよびアンインストール手順については、製品インストールガイドを参照してください。

ダウンロードのトラブルシューティング

- Empower からダウンロードされた製品の jar ファイルと製品ファイルは SHA256 チェックサムを使用して検証されます。
- Installer はファイルをダウンロードする前に書き込みチェックを行います。Kaspersky アンチウイルスソフトウェアを使用しているシステムでは、書き込みチェックが失敗することがあります。可能であれば、アンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。SoftwareAGInstalleryyyyymm.exe を使用して Windows にインストールしている場合は、環境変数 FUSION_INSTALL_ARGS=-skipWriteCheck を設定してから Installer を再起動してみてください。マシンの UAC が有効になっている場合は、[管理者として実行] を使用してコマンドシェルを起動し、シェル内で SoftwareAGInstalleryyyyymm.exe を実行します。
- ファイルのダウンロード時に、アクティビティが完全に停止したように見えることがあります。これは、Installer がダウンロードしているファイルを、ウイルススキャナがスキャンしているからです。ダウンロードは、ウイルススキャナがファイルのスキャンを完了した後で再開されます。
- ネットワークがファイルのダウンロードに干渉する場合、Empower に接続する際に問題が発生したり、破損した圧縮ファイルに関するエラーメッセージが表示されたりすることがあります。以下を試行します。
 - 多くのダウンロード問題は、ウイルススキャナなどのセキュリティアプライアンスからの干渉によって引き起こされます。ネットワーク管理者に連絡を取り、ダウンロードが適切に機能するように調整を依頼してください。また、Installer でファイルを適切にダウンロードするにはプロキシを使用する必要があるかどうかを確認してください。ネットワーク管理者に連絡を取り、プロキシまたはファイアウォールのセキュリティ設定の確認を依頼してください。これらの設定で Installer がサポートされていない場合があります。その場合は、IT 部門に連絡を取り、ファイルをダウンロードするためにファイアウォール外のポートへの一時的なアクセスを依頼してください。
 - Installer を再実行します。ただし、今回は [Proxy] パネルで [Use SSL to connect to the Software AG Installer Server] オプションを選択し、[Advanced] の [Logging] タブで [Verbose] ログレベルを選択します。SSL を使用するとストリームが暗号化されるため、セキュリティアプライアンスがあってもインストールを続行できる場合があります。アンチウイルス、アンチマルウェア、またはその他のスキャナは暗号化されたストリームによってトリガされることはありません。また、お使いのネットワークで SSL トラフィックが適切に処理されているかをテストしてください。この診断には公共の Web サイトが利用できます。冗長なログはトラブルシューティングに関する大量の情報を提供します。たとえ問題を見つけれない場合でも冗長ログを Software AG Global Support に渡す必要があります。
 - 別のネットワークにアクセスできる場合は、同じインストールをそのネットワークで実行してみます。インストールが成功した場合は、問題のあるネットワーク内のマシンで使用するためのインストールイメージを作成します。
 - これらのオプションを試行しても問題が解決しない場合には、Software AG Global Support に問い合わせてください。あらゆる可能性を探ってみても問題が解決しない場合、またはインストール

イメージが早急に必要場合には、Software AG Global Supportは Software AG Logistics に連絡を取り、製品を DVD または非公開の FTP サイトで提供するよう依頼できます。

3 GUI を使用したインストール

| | |
|----------------------------------------------------|----|
| ■ Windows システムでの Installer の起動 | 22 |
| ■ Mac OS X またはその他の UNIX システムでの Installer の起動 | 22 |
| ■ 最初のパネルの表示 | 24 |
| ■ プロキシサーバを使用したインストール | 24 |
| ■ リリース、ユーザ名およびパスワードの指定 | 25 |
| ■ インストールディレクトリの指定 | 26 |
| ■ インストールする製品の選択 | 28 |
| ■ インストールする Language Pack の選択 | 30 |
| ■ ライセンス許諾書の確認 | 30 |
| ■ 製品の設定 | 30 |
| ■ 確認とインストール | 31 |
| ■ インストールイメージの使用 | 31 |
| ■ 既存のイメージを使用した製品インストールまたはイメージ作成の迅速化 | 33 |
| ■ インストールスクリプトの使用 | 35 |
| ■ イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成 | 38 |
| ■ ログオプションの変更 | 40 |

Windows システムでの Installer の起動

1. これより前の章で作成したインストールユーザでマシンにログオンします。
2. Software AG から送信される電子メールを開きます。手順に従って、Windows 用の Software AG Installer をダウンロードします。電子メールに添付された製品ライセンスファイルを、インストール先のマシンにコピーします。

重要: ヘブライ語の Windows システムの場合は、ヘブライ語の文字がパスに含まれないディレクトリに exe ファイルを移動します。このようにできない場合は、[22 ページの「Mac OS X またはその他の UNIX システムでの Installer の起動」](#)の手順に従ってインストールする必要があります。

3. インストール先のマシン上で稼働している Software AG 以外のすべてのアプリケーションをシャットダウンします。これらのアプリケーションをシャットダウンしない場合は、製品ファイルが破損する可能性があります。
4. 新しい製品を (同じリリースの製品が含まれている) 既存の Software AG インストールディレクトリにインストールする場合は、オペレーティングシステムによってロックされている重要なファイルを Installer が更新できるように、そのディレクトリで実行中の製品をシャットダウンする必要があります。手順については、製品マニュアルを参照してください。
5. Installer を実行するマシンで CLASSPATH 環境変数を確認します。バージョン 8 よりも前の JRE を指している場合は、パスを削除するか、バージョン 8 以降の JRE を指すように変数を編集します。
6. Windows エクスプローラを起動して、Installer が含まれるディレクトリに移動し、SoftwareAGInstalleryyyyymm ファイルをダブルクリックします。

ウィザードを進めると、Installer によって必要なファイルの一部がデフォルトのシステム一時ディレクトリに保存されます。Installer をキャンセルし、後で同じマシンで再起動すると、パフォーマンスを向上させるために、保存されているファイルが使用され、Installer Server から再度ダウンロードされません。インストールに成功すると、保存されているファイルは削除されます。

メモ: 一時ディレクトリに何千ものファイルが含まれている場合は、起動プロセスに 1 分以上かかることがあります。この間、「システムリソースの初期化中」というメッセージが表示されます。このプロセスを速くする場合は、一時フォルダ内のファイルを削除します。

Mac OS X またはその他の UNIX システムでの Installer の起動

1. これより前の章で作成したインストールユーザでマシンにログオンします。
2. Software AG から送信される電子メールを開きます。手順に従って、UNIX 用の Software AG Installer をダウンロードします。電子メールに添付された製品ライセンスファイルを、インストール先のマシンにコピーします。

3. インストール先のマシン上で稼動している Software AG 以外のすべてのアプリケーションをシャットダウンします。これらのアプリケーションをシャットダウンしない場合は、製品ファイルが破損する可能性があります。
4. 新しい製品を (同じリリースの製品を含んでいる) 既存の Software AG インストールディレクトリにインストールする場合:
 - オペレーティングシステムによってロックされている重要なファイルを Installer が更新できるように、そのディレクトリで実行中の製品をシャットダウンする必要があります。手順については、製品マニュアルを参照してください。
 - Software AG インストールディレクトリに、afterInstallAsRootLog.txt という名前のファイルが存在するかどうかを確認します。存在する場合は、`Software AG_directory/bin/beforeInstallAsRoot` スクリプトを実行します。
5. Mac OS X またはその他の UNIX システムでは、installer および Uninstaller の実行用に 32 ビットまたは 64 ビットの JRE をインストールします。Mac OS X およびその他の UNIX システムでサポートされている JDK の詳細については、Software AG Documentation Website で製品のシステム要件を参照してください。
6. Installer を実行するマシンで CLASSPATH 環境変数を確認します。バージョン 8 よりも前の JRE を指している場合は、パスを削除するか、バージョン 8 以降の JRE を指すように変数を編集します。
7. ユーザファイル作成モードマスク (umask) が、新たに作成されたファイルおよびディレクトリのファイル権限に影響を及ぼすことがあります。インストールに使用する umask により、これらのファイルにユーザがアクセスしたり、ファイルを実行したりできなくならないように注意してください。
8. リモートマシンにインストールするには、以下の手順に従います。
 - a. リモートマシンがローカルマシンの X11 ディスプレイにアクセスできるようにします。ローカルマシンが UNIX システムの場合は、コマンド `xhost +remote_machine` を使用できます。ローカルマシンの Windows で X11 エミュレーションが実行されている場合は、エミュレーションソフトウェアでプロパティの設定が必要となることがあります。
 - b. リモートマシンにログオンし、シェル変数 DISPLAY にローカルマシンの X11 ディスプレイの値を設定します。たとえば、sh シェル、ksh シェルまたは bash シェルを使用している場合は、`export DISPLAY=local_machine:0.0` を使用できます。csh シェルまたは tcsh シェルを使用している場合は、`setenv DISPLAY=local_machine:0.0` を使用できます。
 - c. 同じシェルで Installer を起動します。
 - d. Mac OS X では、GUI モードでインストールできるのは Mac OS X デスクトップのみであり、コンソールモードでインストールできるのは端末セッションのみです。その他の UNIX システムのように、リモート X11 ディスプレイを使用することはできません。
9. 次のコマンドを実行して Installer を開始します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
```

使用可能なすべてのコマンドラインオプションをリストするには、次のコマンドを実行します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg} -help -console
```

ウィザードを進めると、Installer によって必要なファイルの一部がデフォルトの一時ディレクトリに保存されます。Installer をキャンセルし、後で同じマシンで再起動すると、パフォーマンスを向上さ

せるために、保存されているファイルが使用され、Installer Server から再度ダウンロードされません。インストールに成功すると、保存されているファイルは削除されます。

メモ: 一時ディレクトリに何千ものファイルが含まれている場合は、起動プロセスに 1 分以上かかることがあります。この間、「システムリソースの初期化中」というメッセージが表示されます。このプロセスを速くする場合は、一時フォルダ内のファイルを削除します。

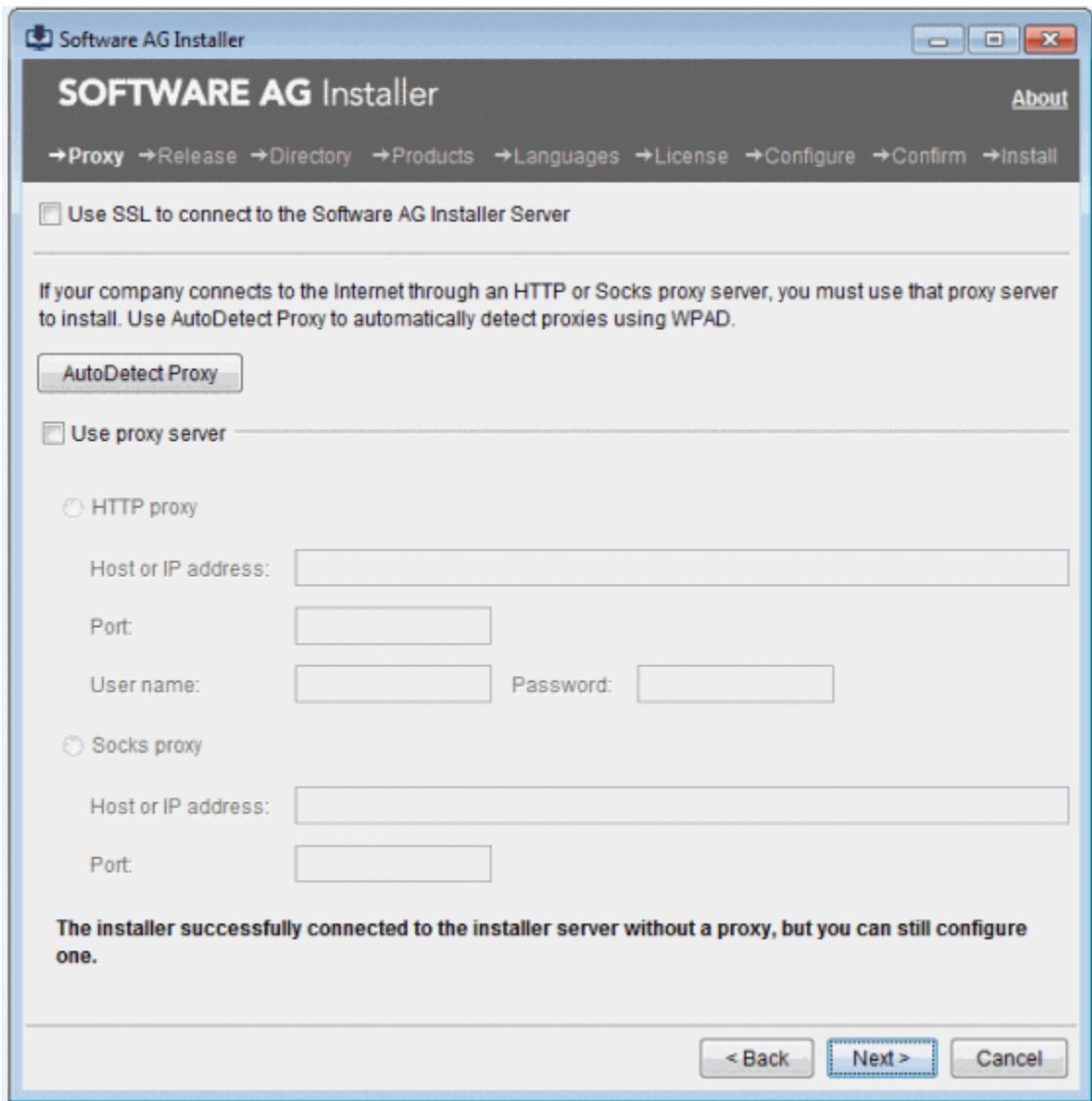
メモ: Installer の起動時に Java メッセージが表示されることがあります。たとえば、システム設定や接続のロック解除に関する警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視できます。

最初のパネルの表示

Installer を起動すると、最初のパネルが表示されます。GUI のサイズは変更できます。

メモ: Windows システムで Installer ランチャー (Zipfusion) の進捗バーが進捗状況を表示したまま停止した場合、アンチウイルスソフトウェアが干渉している可能性があります。jar ファイルを代わりに使用して Installer を起動してください ([22 ページの「Windows システムでの Installer の起動」](#) を参照)。

プロキシサーバを使用したインストール

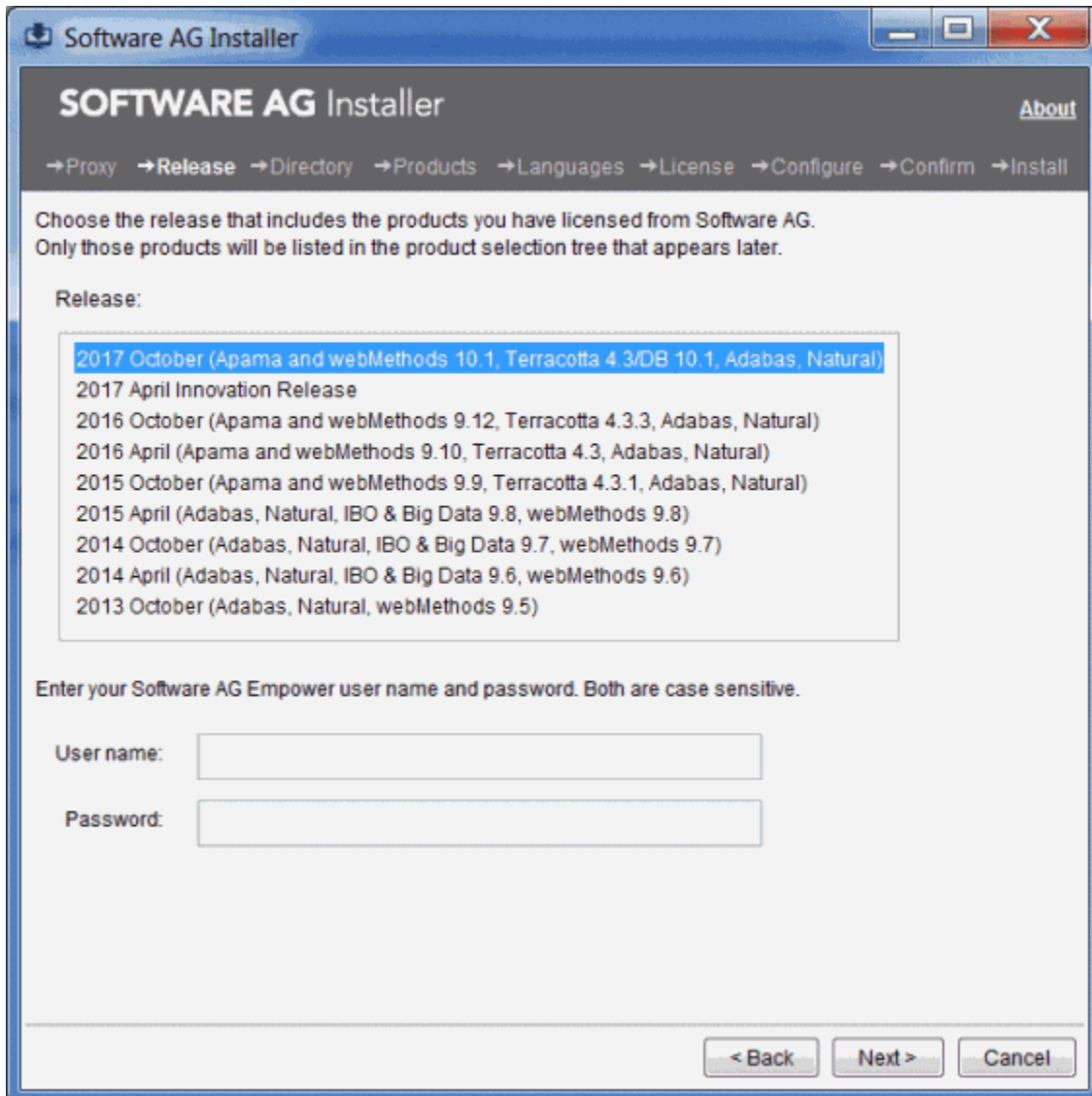


Installer がプロキシを介さずに Software AG Installer Server に接続できる場合は、そのことを示すメッセージが表示されます。[Next] をクリックして続行し、Installer でプロキシサーバを自動検出してその中から選択できるように [AutoDetect] をクリックするか、HTTP または Socks プロキシサーバの設定を手動で指定できます。

Installer が Software AG Installer Server への接続にプロキシサーバを必要とし、プロキシサーバを検出した場合は、そのことを示すメッセージが表示されます。前述と同じアクションを実行できます。

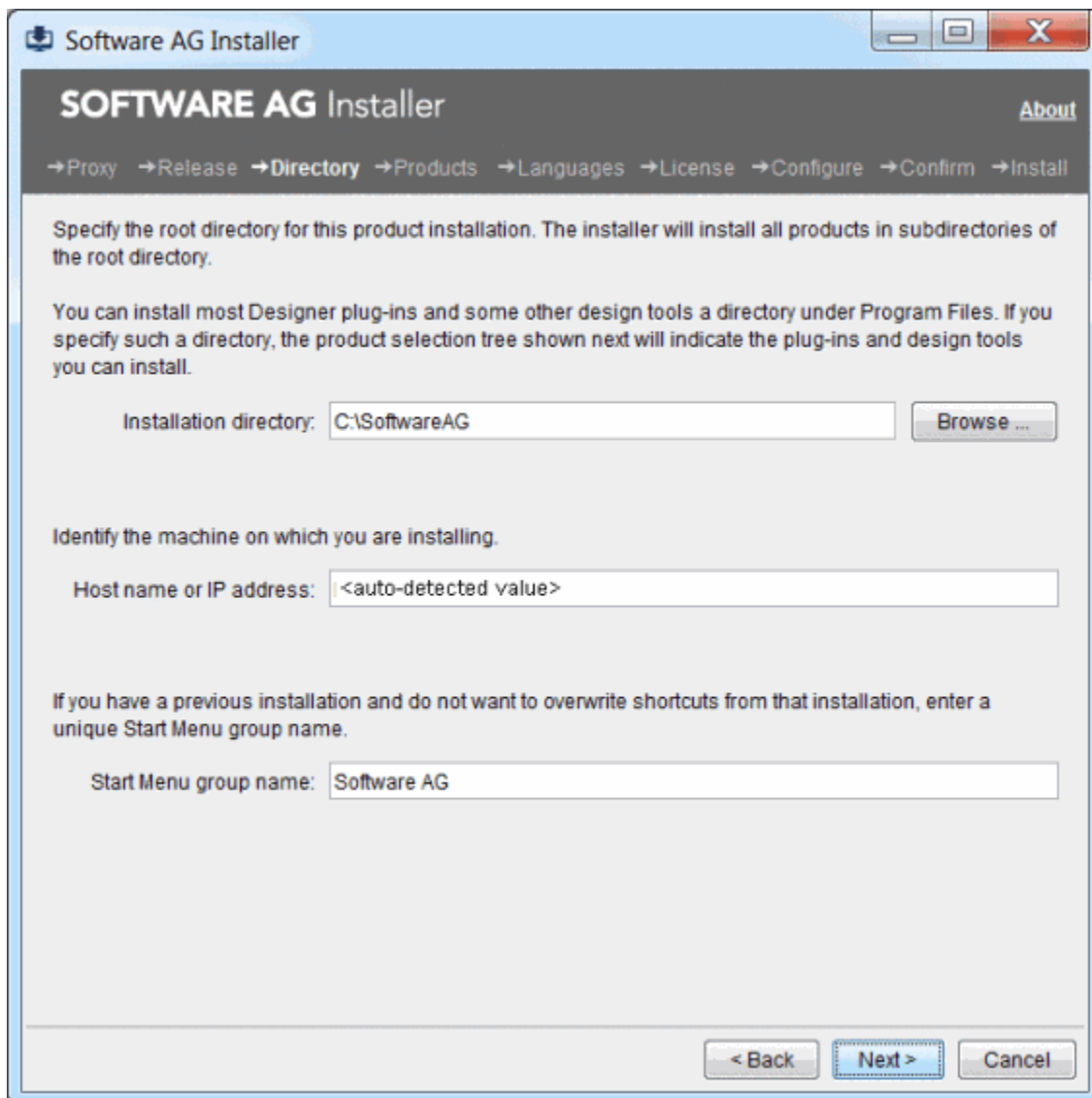
Installer が Software AG Installer Server への接続にプロキシサーバを必要とし、プロキシサーバを検出できない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。この問題が解決しないとインストールを続行できません。

リリース、ユーザ名およびパスワードの指定



[Release] リストで、ライセンスされているインストール対象製品が含まれる製品リリースをクリックします。[User name] および [Password] には、Empower ユーザ名とパスワードを入力します。Installer は、このクレデンシャルを使用して、ライセンスされている製品を認識します。[Next] をクリックします。Installer は Empower に接続して製品のリストをダウンロードします。

インストールディレクトリの指定



[**Installation directory**] には、Software AG 製品をインストールするインストールディレクトリを指定します。

メモ: インストールディレクトリにシンボリックリンクを使用する場合は、そのディレクトリにインストールするたびにシンボリックリンクを使用する必要があります。たとえば、ディレクトリ名を使用して一部の製品をインストールし、後で同じディレクトリにシンボリックリンクを作成してさらに製品をインストールすることはできません。その逆も同様です。

どの方法でインストールする場合でも、Installer を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスが自動検出されます。必要に応じて、以下の手順に従ってその値を変更します。

- マシンにホスト名または IP アドレスが複数設定されている場合、Installer によって検出された値が使用したい値と異なることがあります。たとえば、組織のネットワーク内部からのみアクセスできる IP アドレスが検出される可能性があります。組織の外部から製品にアクセスできるようにする場合は、自動検出された値を外部からアクセス可能なホスト名または IP アドレスで置換します。

- クラウドにインストールする場合、Installer によってクラウドインスタンスの内部 IP アドレスが検出されます。クラウドインスタンスの外部から (たとえば、他の製品を実行している別のクラウドインスタンスから) 製品にアクセスできるようにする場合は、自動検出された値を外部からアクセス可能なホスト名または IP アドレスで置換します。

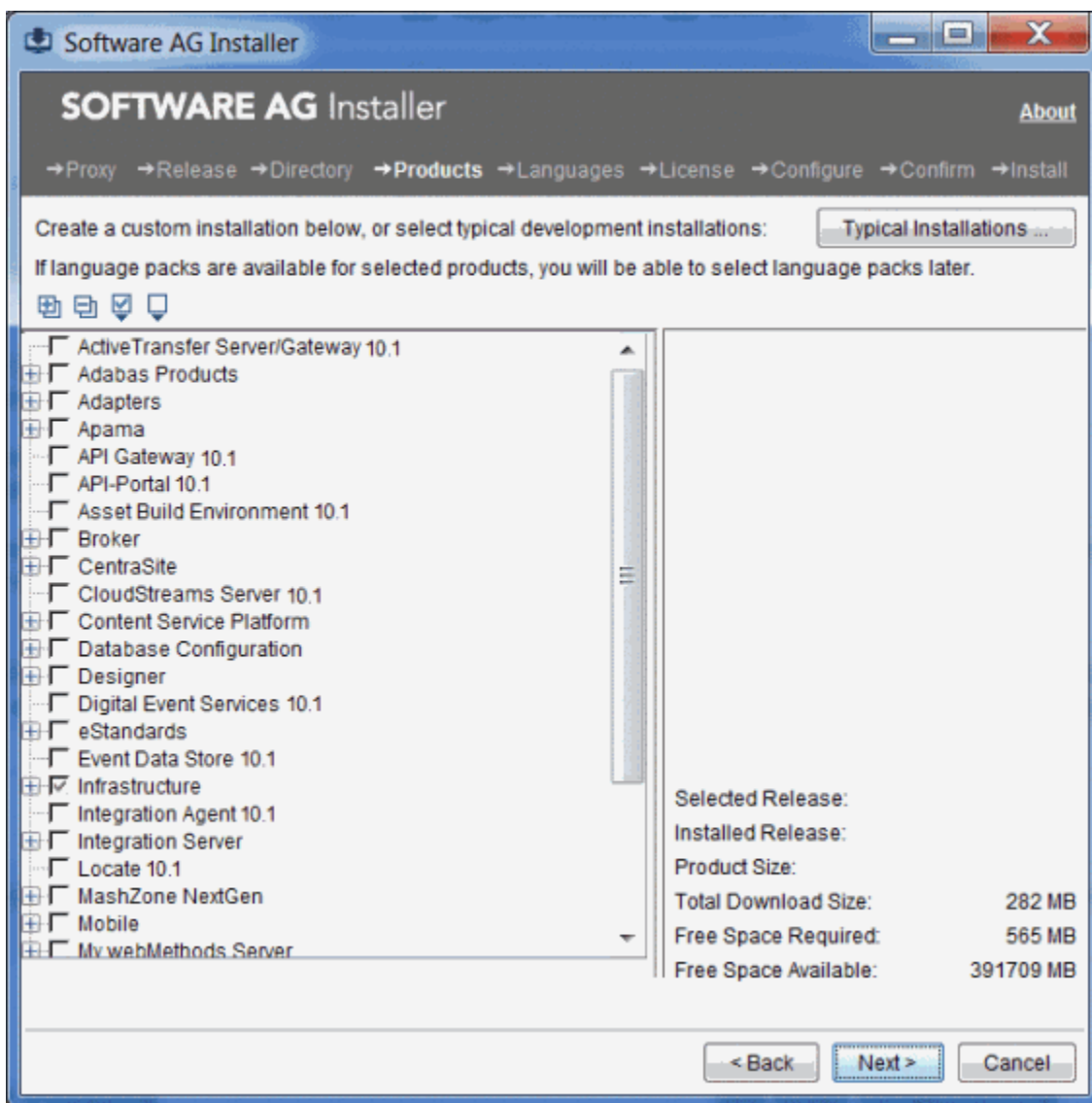
スクリプトを作成する場合は、自動検出された値または変更された値がスクリプトに保存されます。スクリプトからインストールする場合は、Installer は保存されている値を使用します。

メモ: Software AG ランタイム製品で使用される一部のサードパーティアプリケーションには、インストールディレクトリに空白文字を使用できないという制限があります。そのため、Software AG では空白文字を含まないディレクトリにインストールすることをお勧めします。ただし、Windows システムにインストールする場合、一部の Software AG 設計用製品は Program Files 下にあるディレクトリにインストールできます。これらの製品はインストール時に識別できます。

Windows システムにインストールする場合は、[**Start Menu group name**] に、インストールする製品の [スタート] メニューグループに使用する名前を指定します。

[**Next**] をクリックします。

インストールする製品の選択




ライセンスされており、インストール先のマシンのオペレーティングシステムでサポートされているすべての製品のリストが表示されます。

重要: Installer では、オペレーティングシステムのバージョン (Windows) や種別 (UNIX) は区別されません。製品のシステム要件にリストされているサポート対象のバージョンまたは種別にのみ製品をインストールしてください。

製品ツリーの一番上のレベルは製品の名前とリリースを示し、その下のレベルは製品を構成するアイテム、またはその製品と共に使用可能なアイテムを示しています。指定されたインストールディレクトリに製品またはアイテムが既にインストールされている場合は、アイテム名の隣にテキスト ([Installed]) が表示され、そのアイテム名とチェックボックスはグレー表示されます。

製品は以下の方法で選択できます。

- **[Typical Installations]** リストから、標準開発インストールを選択します。インストールを構成する製品が自動的に選択されます。

-  アイコンをクリックして、ツリー内のすべての製品を選択します。
- ツリー内の個別の製品を選択します。選択した製品のために、同じマシンにインストールする必要がある製品が他にある場合は、Installer によって、以下のことが実行されます。
 - Empower からインストールする場合は、必要な製品が自動的に選択されます。

メモ: 後で製品を選択解除した場合でも、その製品に必要な製品が自動的に選択解除されることはありません。選択されている必要な製品のすべてを自動的に選択解除するには、ツリーですべての製品を選択解除し、インストール製品を選択し直してください。

- イメージを作成するときには、必要な製品のリストが表示され、ダウンロードしてイメージに含めるかどうかを尋ねられます。必要な製品がターゲットインストールディレクトリに存在しない場合は、イメージに含める必要があります。そのようにしない場合、そのイメージからインストールしようとする、インストールが失敗します。

メモ: 選択した製品には他の製品が必要であるが、他のマシンにインストールされていても問題ない場合、それらの製品は自動的に選択されず、リストにも表示されません。

終了したら、[Next] をクリックします。

インストールする Language Pack の選択

インストールする製品、または既にインストールされている製品に使用可能な Language Pack がある場合は、Language Pack ツリーが表示されます。このツリーの動作は、製品ツリーの動作と同じです。

Installer はすべての製品に対して米国英語をデフォルトでインストールしますが、多くの製品では複数の言語がサポートされています。Language Pack はいくつでもインストール可能であり、ユーザはインストールした全言語を使用できます。インストールする Language Pack を選択して、[Next] をクリックします。

ライセンス許諾書の確認

ライセンス許諾書を読み、記載事項を承諾するか否かを選択します。サードパーティのライセンス許諾書を読むには、インターネットアクセスが必要です。インターネットにアクセスできない場合は、インターネットにアクセスできるマシンに移動し、ブラウザで「<http://documentation.softwareag.com/legal>」と入力します。

製品の設定

インストールする製品で値の設定が必要な場合は、設定情報を求められます。製品設定の詳細については、該当する製品のインストールマニュアルを参照してください。

確認とインストール

インストール対象として選択した製品およびアイテムのリストを確認します。リストが正しくない場合は、製品ツリーに戻るまで [Back] をクリックし、選択を修正します。リストが正しい場合は [Next] をクリックします。

新しい製品を (同じリリースの製品を含んでいる) 既存の製品インストールディレクトリにインストールする場合は、この章の Installer の起動に関する節の手順に従って、そのディレクトリにインストールされている実行中の製品をシャットダウンします。Windows では、実行中の製品がある場合は、Installer が製品のリストを表示します。リストの PID 列は、タスクマネージャに表示されるプロセス ID を示します。製品列は、Installer の製品ツリーに表示される製品名を示します。製品マニュアルに記載されている手順を使用して、実行中の製品をシャットダウンします。

重要: 製品が実行中のまま Installer を続行すると、必要なファイルがロックされているため Installer がファイルコピーの段階でハングするか、インストールが破損する可能性があります。タスクマネージャを使用してプロセスを終了しないでください。終了すると、インストール環境が破損する可能性があります。

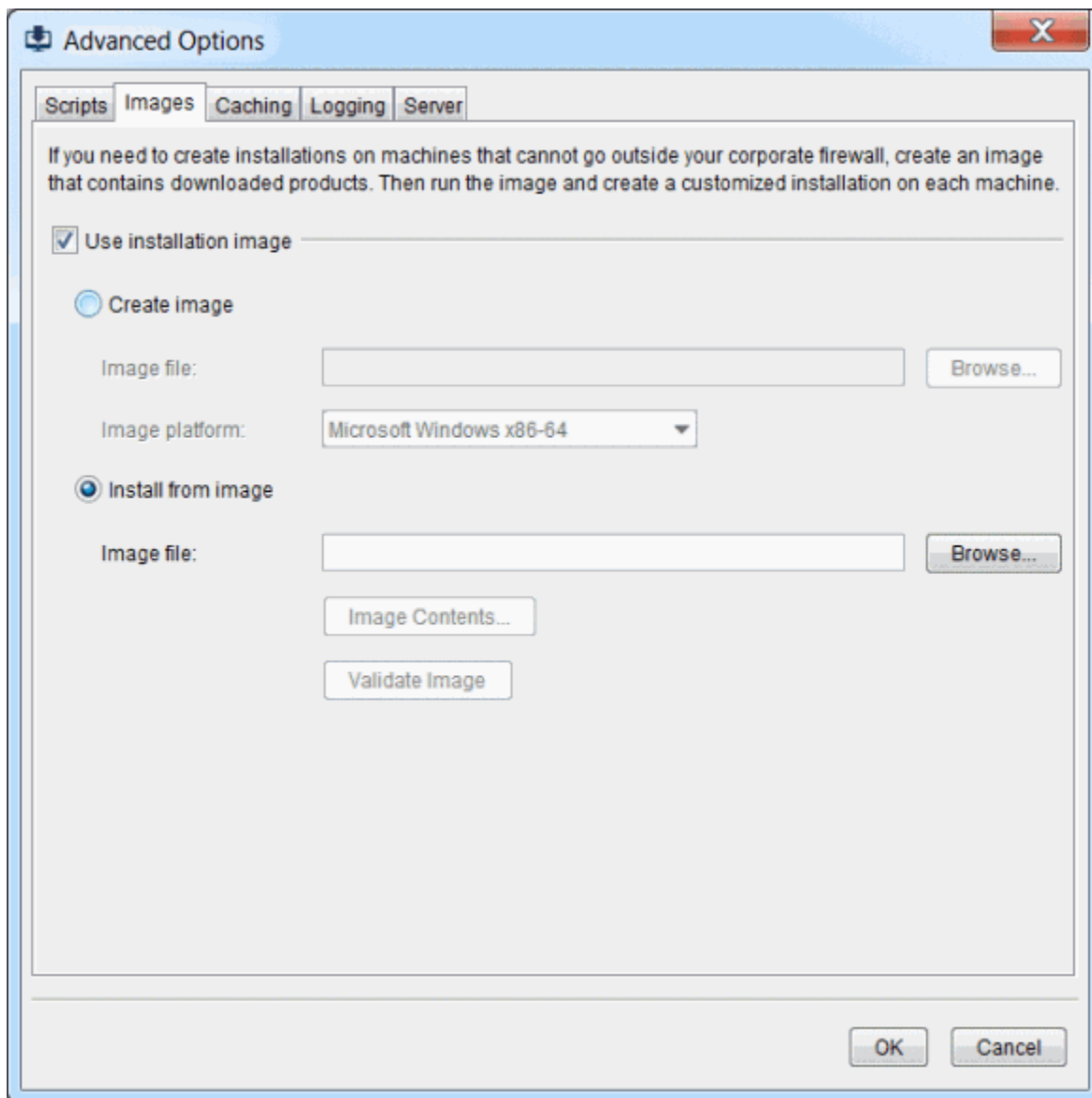
製品と関連アイテムがインストールされ、続いてインストール完了パネルが表示されます。[Close] をクリックします。

重要: 製品の設定段階で Installer を停止した場合、または Installer が終了した場合、まだ設定されていない製品はすべて、Installer と Uninstaller の製品選択ツリーで「(Configuration Incomplete)」という語句とともに表示されます。これらの製品はアンインストールしてからインストールする必要があります。

インストールイメージの使用

重要: Installer 以外のツールを使用して、イメージファイルを抽出または変更しないでください。

最初のパネルで [Advanced Options] をクリックし、次に [Images] タブをクリックします。



単一のオペレーティングシステム用のイメージの作成

1. [Create image] をクリックします。
2. [Image file] フィールドに、新しいイメージを保存するファイルの名前を入力します。オペレーティングシステムで許可されている任意の名前を指定できます。拡張子は指定しないでください。Installer によって自動的に .zip が追加されます。

デフォルトでは、[OK] をクリックすると、Installer によって指定されるディレクトリに新しいイメージファイルが書き込まれます。ファイルを別のディレクトリに書き込むには、[Image file] フィールドにファイルの完全パスを入力します。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。

3. **[Image platform]** フィールドに、イメージを作成するシステムを入力します。任意のシステムから任意のシステム用のイメージを作成できます。
4. **[OK]** をクリックして、24 ページの「[プロキシサーバを使用したインストール](#)」に移動します。その節とそれ以降の節で説明するすべてのパネルが表示されます。ただし、インストールディレクトリパネルと製品設定パネルは、イメージからインストールするときに表示されます。

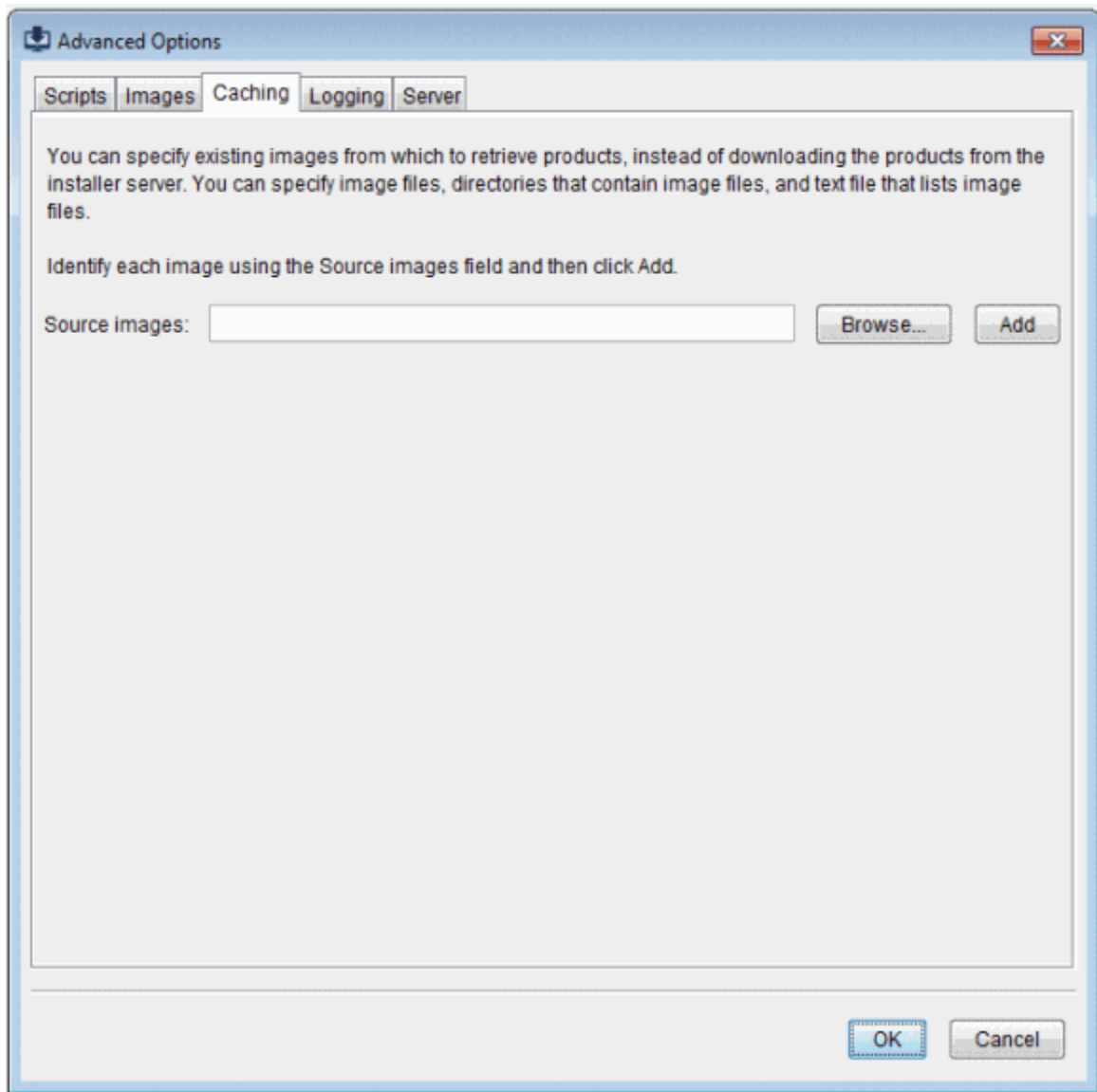
重要: イメージにダウンロードする製品を選択すると、選択した製品に必要な追加製品が表示されます。これらの必要な製品がターゲットインストールディレクトリにまだ存在しない場合は、イメージに含める必要があります。含めないと、選択した製品がインストールできなくなり、場合によっては、インストール全体が失敗することになります。これには Java パッケージがあります。Java パッケージがターゲットインストールディレクトリに存在しない場合は、イメージに含める必要があります。Installer によって、すべてのイメージにライセンス許諾書が含まれます。

イメージからのインストール

1. **[Install from image]** をクリックします。
2. **[Image file]** フィールドに、インストール元のイメージファイルの完全パスを入力します。
3. イメージの内容をリストするには、**[Image Contents]** をクリックします。
4. インストールする前にそのイメージの内容を検証するには、**[Validate Image]** をクリックします。検証では、欠落しているファイルがないかどうか、すべてのチェックサムが一致しているかどうかを確認されます。

既存のイメージを使用した製品インストールまたはイメージ作成の迅速化

最初のパネルで **[Advanced Options]** をクリックし、次に **[Caching]** タブをクリックします。



以下に説明するように、必要な製品が含まれている既存のイメージを指定します。作成されたイメージのオペレーティングシステムは関係ありません。

- イメージファイルの完全パスを指定し、[**Add**] をクリックします。
- イメージファイルを含むディレクトリを指定し、[**Add**] をクリックします。
- イメージファイルをリストするテキストファイルを作成してから、パネルでそのテキストファイルを指定し [**Add**] をクリックします。たとえば、テキストファイルは次のようになります。

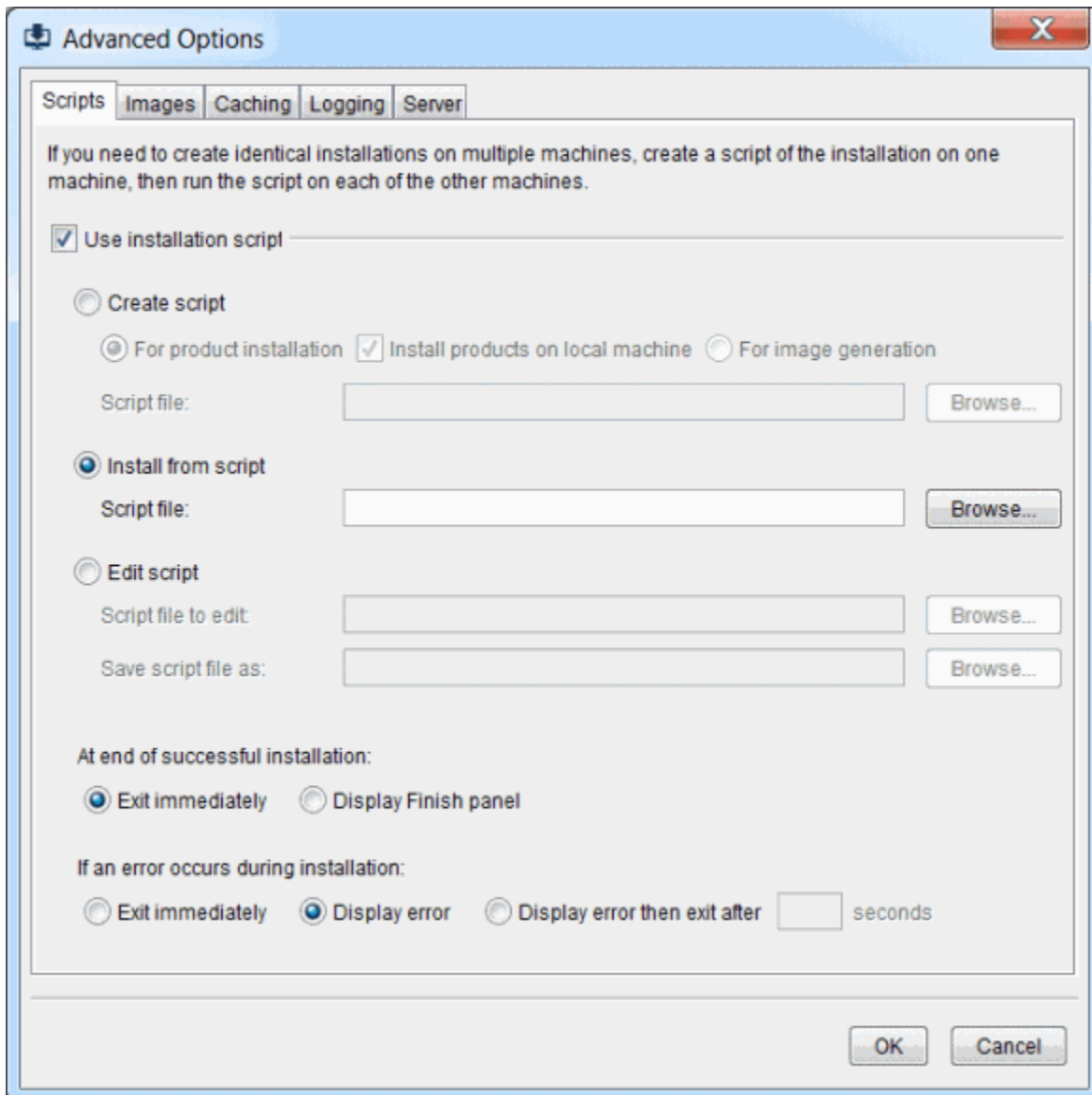
```
C:\¥IS_HPUX.zip  
C:\¥Designer_Solaris.zip  
C:\¥MwS_Windows.zip
```

ファイルまたはディレクトリを指定するたびに、[**Source images**] フィールドの下に表示されます。

メモ: イメージファイルでないファイルを指定した場合は、無視されます。

インストールスクリプトの使用

最初のパネルで [Advanced Options] をクリックし、次に [Scripts] タブをクリックします。



スクリプトの作成

1. [Create script] をクリックし、[For product installation] をクリックします。
2. スクリプトの作成中に、製品をローカルマシンにインストールするかどうかを指定します。
3. [Script file] フィールドに、新しいスクリプトを保存するファイルの名前を入力します。オペレーティングシステムで許可されている任意のファイル名を指定できます。

デフォルトでは、[OK] をクリックすると、Installer によって指定されるディレクトリに新しいスクリプトファイルが書き込まれます。ファイルを別のディレクトリに書き込むには、[Script file] フィールドにファイルの完全パスを入力します。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。

- Empower からではなくイメージからインストールするスクリプトを自分で作成する場合には、[Images] タブをクリックし、[Install from image] をクリックし、イメージの名前を [Image file] フィールドに入力します。
- [OK] をクリックし、24 ページの「プロキシサーバを使用したインストール」に移動し、この章の残りの指示に従います。

重要: 既存の Software AG 製品のインストールディレクトリに製品をインストールするスクリプトを作成する場合、[Browse] ボタンを使用してインストールディレクトリを選択することを強くお勧めします。インストールディレクトリ名をフィールドに直接入力し、大文字と小文字が一致しなかった場合、インストールが破損して回復できなくなる可能性があります。

既存のスクリプトの編集

重要: テキストファイルを開いて手でスクリプトを編集しないでください。

- [Edit script] をクリックします。
- [Script file to edit] フィールドで、編集するスクリプトが含まれるファイルを参照します。
- 編集したスクリプトを別の名前で保存する場合は、[Save script to file] フィールドに、編集したスクリプトを保存するファイルの名前を入力します。オペレーティングシステムで許可されている任意のファイル名を指定できます。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。
- [OK] をクリックし、24 ページの「プロキシサーバを使用したインストール」に移動し、この章の残りの指示に従います。

GUI を使用したスクリプトからのインストール

メモ: Windows ファイアウォールが有効になっているマシンでスクリプトを実行すると、スクリプトの実行時に警告が表示されることがあります。これにより、スクリプトがハングまたは失敗することがあります。exe ファイルではなく jar ファイルを使用することにより、この問題を回避できます。手順については、『22 ページの「Windows システムでの Installer の起動」』を参照してください。

- [Install from script] をクリックします。
- [Script file] フィールドに、インストール元のスクリプトファイルの完全パスを入力します。

重要: スクリプトを Empower から作成した場合は、スクリプトで参照される製品リリースが Empower で使用できる必要があります。使用できない場合、スクリプトは失敗します。スクリプトをイメージから作成した場合は、イメージがスクリプトを作成したときの場所に存在している必要があります。存在しない場合、スクリプトは失敗します。

3. デフォルトでは、Installer はスクリプトの正常実行後すぐに終了します。終了するよう選択するまで [Finish] パネルを表示するには、[**Display Finish panel**] を選択します。
4. スクリプトの実行中にエラーが発生した場合、インストールは失敗します。デフォルトでは、Installer はエラーを表示しますが、終了はしません。代わりに [**Exit immediately**] または [**Display error then exit after *number_of_seconds* seconds**] を選択できます。

Windows システムでコマンドラインを使用したスクリプトからのインストール

Windows ファイアウォールが有効になっているマシンでスクリプトを実行すると、スクリプトの実行時に警告が表示されることがあります。これにより、スクリプトがハングまたは失敗することがあります。exe ファイルではなく jar ファイルを使用することにより、この問題を回避できます。

exe ファイルを使用するには、以下の手順に従います。

1. 以前に作成したインストールユーザでログオンします。
2. 環境変数 ZFUSION_INSTALL_ARGS を `-readScript full_path_to_script_file` に設定します。たとえば、次のように入力します。

```
set ZFUSION_INSTALL_ARGS= -readScript c:\myScript.txt
```

3. コマンドウィンドウを開き、Installer が含まれているディレクトリに移動し、`SoftwareAGInstalleryyyymm.exe` を実行します。

メモ: マシンで UAC が有効になっていると、ZFUSION_INSTALL_ARGS が正しく読み込まれない場合があります。スクリプトが起動されない場合があります。[管理者として実行] 機能を使用してコマンドシェルを起動し、`SoftwareAGInstalleryyyymm.exe` をシェル内で実行します。

jar ファイルを使用するには、以下の手順に従います。

1. Software AG から電子メールで送信されるインストール手順に従って UNIX 用の Installer をダウンロードします。
2. Installer および Uninstaller の実行用に 32 ビットまたは 64 ビットの JRE をインストールします。Windows システムでサポートされている JDK の詳細については、「[Software AG マニュアルの Web サイト](#)」で製品のシステム要件を参照してください。
3. 次のコマンドを実行します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip}
-readScript full_path_to_existing_script_file
```

HTTP または Socks プロキシサーバを介してインターネットに接続している場合、そのプロキシサーバを使用してインストールを行う必要があります。スクリプトを作成するときにプロキシ情報を指定した場合は、ユーザ名とパスワードを除くすべての設定がスクリプトに保存されています。保存されている設定を上書きする場合、またはスクリプトの作成時にプロキシ情報を指定しなかった場合は、以下のよう適切なパラメータを指定します。

- Installer で HTTP プロキシサーバを使用するには、コマンドで次のパラメータを指定します。

```
-proxyHost host -proxyPort port -proxyUser user -proxyPass password
```

- Installer で Socks プロキシサーバを使用するには、コマンドで次のパラメータを指定します。

```
-socksProxyHost host -socksProxyPort port
```

次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip} -socksProxyHost host
-socksProxyPort port -readScript full_path_to_existing_script_file
```

デフォルトでは、Installer はスクリプトの正常実行後すぐに終了します。代わりにスクリプトの完了後にいつ終了するかを選択できるようにするには、コマンドの最後に `-scriptNoExit` パラメータを指定します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合、インストールは失敗します。デフォルトでは、Installer はエラーを表示しますが、終了はしません。ゼロ以外の終了値を指定してすぐに終了するには、コマンドの最後に `-scriptErrorInteract no` パラメータを指定します。エラーを表示し、指定した秒数だけ一時停止した後に終了するには、コマンドの最後に `-scriptErrorInteract number_of_seconds` パラメータを指定します。

イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成

イメージ生成スクリプトの作成

1. 最初のパネルで **[Advanced Options]** をクリックし、次に **[Scripts]** タブをクリックします。
2. **[Create script]** をクリックし、**[For image generation]** をクリックします。
3. **[Script file]** フィールドに、新しいイメージ生成スクリプトを保存するファイルの名前を入力します。オペレーティングシステムで許可されている任意のファイル名を指定できます。

デフォルトでは、**[OK]** をクリックすると、Installer によって指定されるディレクトリに新しいスクリプトファイルが書き込まれます。ファイルを別のディレクトリに書き込むには、**[Script file]** フィールドにファイルの完全パスを入力します。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。

4. Installer を実行しているオペレーティングシステムが、イメージを生成する製品を最も多くサポートするシステムである場合は、**[OK]** をクリックし、[24 ページの「プロキシサーバを使用したインストール」](#) に移動し、この章の残りの指示に従います。

それ以外の場合は、以下の手順に従って、イメージを生成する製品を最も多くサポートするオペレーティングシステムを指定します。

メモ: 通常、一番多くの製品をサポートするオペレーティングシステムは Microsoft Windows 64 ビットです。

- a. **[Images]** タブをクリックし、**[Create image]** をクリックします。
- b. **[Image file]** フィールドにファイル名を入力します。

メモ: この名前は Installer によって使用されますが、ほかの目的で使用されることはありません。

- c. **[Image platform]** フィールドに、イメージの生成対象となるオペレーティングシステムを入力します。
- d. [24 ページの「プロキシサーバを使用したインストール」](#) に移動し、この章の残りの指示を続行します。

イメージの生成

1. Installer を再起動します。
2. 最初のパネルで **[Advanced Options]** をクリックし、次に **[Scripts]** タブをクリックします。
3. **[Install from script]** をクリックします。
4. **[Script file]** フィールドに、作成したイメージ生成スクリプトファイルの完全パスを入力します。

メモ: Windows ファイアウォールが有効になっているマシンでスクリプトを実行すると、スクリプトの実行時に警告が表示されることがあります。これにより、スクリプトがハングまたは失敗することがあります。exe ファイルではなく jar ファイルを使用することにより、この問題を回避できます。手順については、『[22 ページの「Windows システムでの Installer の起動」](#)』を参照してください。

5. **[Images]** タブをクリックし、**[Create image]** をクリックします。
6. **[Image file]** フィールドに、新しいイメージを保存するファイルの名前を入力します。オペレーティングシステムで許可されている任意の名前を指定できます。拡張子は指定しないでください。Installer によって自動的に .zip が追加されます。

デフォルトでは、**[OK]** をクリックすると、Installer によって指定されるディレクトリに新しいイメージファイルが書き込まれます。ファイルを別のディレクトリに書き込むには、**[Image file]** フィールドにファイルの完全パスを入力します。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。

7. **[Image platform]** リストで、イメージの生成対象となるシステムをクリックします。
8. **[OK]** をクリックして、[24 ページの「プロキシサーバを使用したインストール」](#) に移動します。その節とそれ以降の節で説明するすべてのパネルが表示されます。ただし、インストールディレクトリパネルと製品設定パネルは、イメージからインストールするときに表示されます。

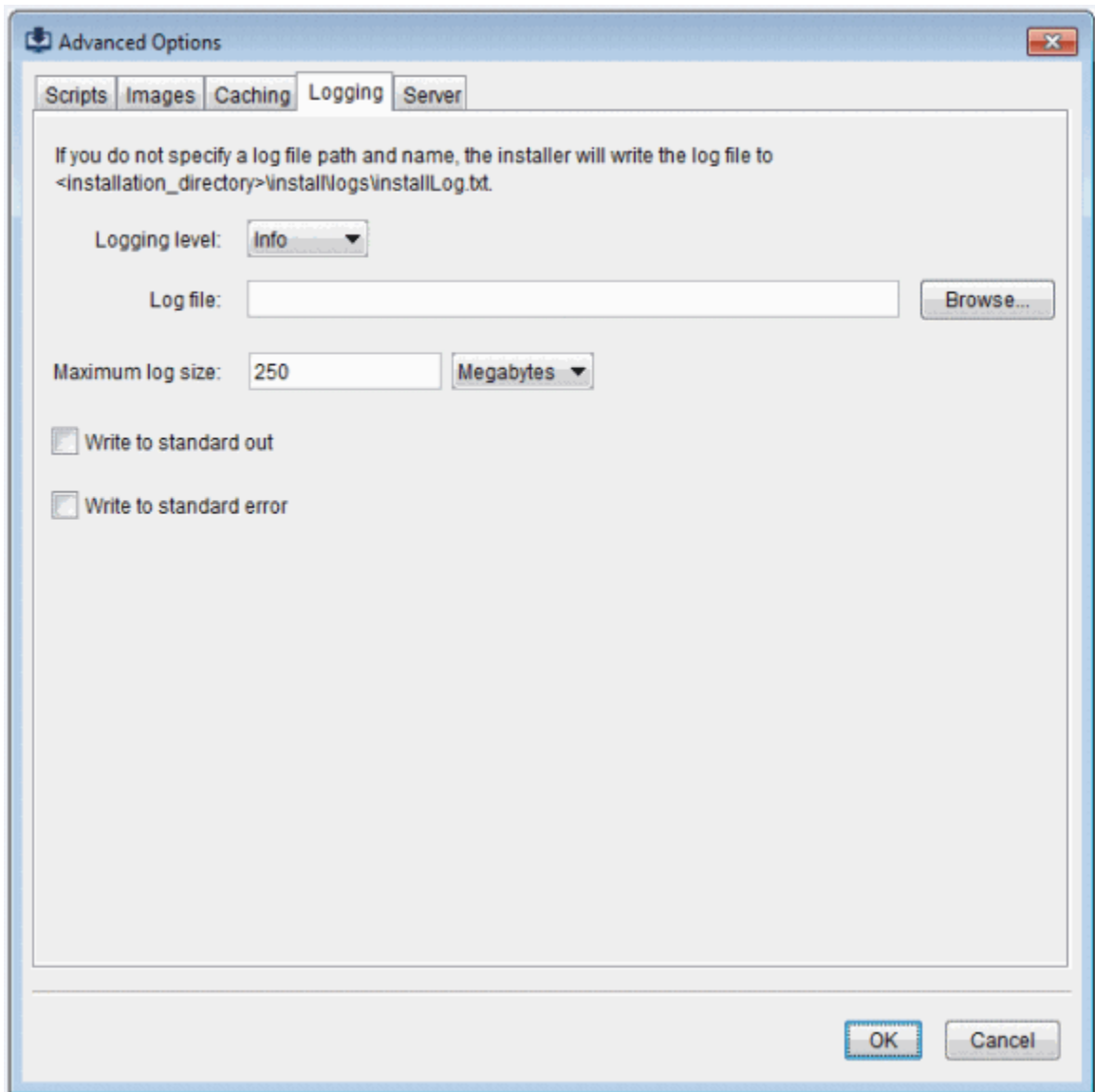
重要: イメージにダウンロードする製品を選択すると、選択した製品に必要な追加製品が表示されます。これらの必要な製品がターゲットインストールディレクトリにまだ存在しない場合は、イメージに含める必要があります。含めないと、選択した製品がインストールできなくなり、場合によっては、インストール全体が失敗することになります。これには Java パッケージがあります。Java パッケージがターゲットインストールディレクトリに存在しない場合は、イメージに含める必要があります。Installer によって、すべてのイメージにライセンス許諾書が含まれます。

9. 前の手順を繰り返して、必要なオペレーティングシステムごとにイメージを作成します。

重要: Installer 以外のツールを使用して、イメージファイルを抽出または変更しないでください。

ログオプションの変更

最初のパネルで [Advanced Options] をクリックし、次に [Logging] タブをクリックします。



ログレベルは以下のとおりです。

| ログに記録する情報量 | 値 |
|------------|-------|
| 致命的なエラーのみ | Fatal |

| ログに記録する情報量 | 値 |
|-----------------------------------------------|----------------|
| 致命的エラーとエラー | Error |
| 致命的エラー、エラーおよび警告 | Warning |
| 致命的エラー、エラー、警告、情報メッセージ | Info |
| すべて | Verbose |
| メモ: このログレベルの場合、10~200 MB のファイルが生成されます。 | |
| 情報なし (つまり、情報はログに記録されない) | None |

デフォルトでは、[OK] をクリックすると、Installer によって指定されるディレクトリに新しいログファイルが書き込まれます。ファイルを別のディレクトリに書き込むには、[Log file] フィールドにファイルの完全パスを入力します。

ログファイルが指定した最大サイズに達した場合、2 目目のファイル (installLog_part2.txt)、次に 3 目目のファイル (installLog_part3.txt)、というようにファイルへの書き込みが開始され、10 個目のファイル (installLog_part10.txt) まで書き込まれます。その後、最初のファイル、次に 2 目目のファイル、というようにファイルが上書きされます。

4 コンソールモードを使用したインストール

| | |
|-----------------------------------------------|----|
| ■ Installer の起動 | 44 |
| ■ プロキシサーバを使用したインストール | 45 |
| ■ リリース、ユーザ名およびパスワードの指定 | 45 |
| ■ インストールディレクトリの指定 | 45 |
| ■ インストールする製品の選択 | 46 |
| ■ インストールする Language Pack の選択 | 47 |
| ■ ライセンス許諾書の確認 | 47 |
| ■ 製品の設定 | 47 |
| ■ 確認とインストール | 47 |
| ■ インストールイメージの使用 | 47 |
| ■ 既存のイメージを使用した製品インストールまたはイメージ作成の迅速化 | 49 |
| ■ インストールスクリプトの使用 | 50 |
| ■ イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成 | 52 |
| ■ ログオプションの変更 | 53 |

Installer の起動

1. これより前の章で作成したインストールユーザでマシンにログオンします。
2. Software AG から送信される電子メールを開きます。手順に従って、UNIX 用の Software AG Installer をダウンロードします。電子メールに添付された製品ライセンスファイルを、インストール先のマシンにコピーします。
3. インストール先のマシン上で稼動している Software AG 以外のすべてのアプリケーションをシャットダウンします。これらのアプリケーションをシャットダウンしない場合は、製品ファイルが破損する可能性があります。
4. 新しい製品を (同じリリースの製品を含んでいる) 既存の Software AG インストールディレクトリにインストールする場合:
 - オペレーティングシステムによってロックされている重要なファイルを Installer が更新できるように、そのディレクトリで実行中の製品をシャットダウンする必要があります。手順については、製品マニュアルを参照してください。
 - Software AG インストールディレクトリに、`afterInstallAsRootLog.txt` という名前のファイルが存在するかどうかを確認します。存在する場合は、`Software AG_directory/bin/beforeInstallAsRoot` スクリプトを実行します。
5. Mac OS X またはその他の UNIX システムでは、`installer` および `Uninstaller` の実行用に 32 ビットまたは 64 ビットの JRE をインストールします。Mac OS X およびその他の UNIX システムでサポートされている JDK の詳細については、Software AG Documentation Website で製品のシステム要件を参照してください。
6. Installer を実行するマシンで `CLASSPATH` 環境変数を確認します。バージョン 8 よりも前の JRE を指している場合は、パスを削除するか、バージョン 8 以降の JRE を指すように変数を編集します。
7. ユーザファイル作成モードマスク (`umask`) が、新たに作成されたファイルおよびディレクトリのファイル権限に影響を及ぼすことがあります。インストールに使用する `umask` により、これらのファイルにユーザがアクセスしたり、ファイルを実行したりできなくならないように注意してください。
8. 次のコマンドを実行して Installer を開始します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyyymm.{jar|zip|dmg} -console
```

使用可能なすべてのコマンドラインオプションをリストするには、次のコマンドを実行します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyyymm.{jar|zip|dmg} -help -console
```

ウィザードを進めると、Installer によって必要なファイルの一部がデフォルトの一時ディレクトリに保存されます。Installer をキャンセルし、後で同じマシンで再起動すると、パフォーマンスを向上させるために、保存されているファイルが使用され、Installer Server から再度ダウンロードされません。インストールに成功すると、保存されているファイルは削除されます。

メモ: 一時ディレクトリに何千ものファイルが含まれている場合は、起動プロセスに 1 分以上かかることがあります。この間、「システムリソースの初期化中」というメッセージが表示されます。このプロセスを速くする場合は、一時フォルダ内のファイルを削除します。

メモ: Installer の起動時に Java メッセージが表示されることがあります。たとえば、システム設定や接続のロック解除に関する警告メッセージが表示されることがあります。このメッセージは無視できます。

プロキシサーバを使用したインストール

Software AG Installer サーバには、SSL を使用して接続できます。

HTTP または Socks プロキシサーバを介してインターネットに接続している場合、そのプロキシサーバを使用してインストールを行う必要があります。

Installer がプロキシサーバを介さずに Software AG Installer Server に接続できる場合は、そのことを示すメッセージが表示されます。Installer でプロキシサーバを自動検出してその中から選択するか、HTTP または Socks プロキシサーバの設定を手動で指定できます。

Installer が Software AG Installer Server への接続にプロキシサーバを必要とし、プロキシサーバを検出した場合は、そのことを示すメッセージが表示されます。前述と同じアクションを実行できます。

Installer が Software AG Installer Server への接続にプロキシサーバを必要とし、プロキシサーバを検出できない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。この問題が解決しないとインストールを続行できません。

リリース、ユーザ名およびパスワードの指定

ライセンスされているインストール対象製品が含まれる製品リリースを選択します。Empower ユーザ名とパスワードを入力します。Installer は、このクレデンシャルを使用して、ライセンスされている製品を認識します。Installer は Empower に接続して製品のリストをダウンロードします。

インストールディレクトリの指定

Software AG 製品をインストールするインストールディレクトリを指定します。

メモ: インストールディレクトリにシンボリックリンクを使用する場合は、そのディレクトリにインストールするたびにシンボリックリンクを使用する必要があります。たとえば、ディレクトリ名を使用して一部の製品をインストールし、後で同じディレクトリにシンボリックリンクを作成してさらに製品をインストールすることはできません。その逆も同様です。

どの方法でインストールする場合でも、Installer を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスが自動検出されます。必要に応じて、以下の手順に従ってその値を変更します。

- マシンにホスト名または IP アドレスが複数設定されている場合、Installer によって検出された値が使用したい値と異なることがあります。たとえば、組織のネットワーク内部からのみアクセスできる IP アドレスが検出される可能性があります。組織の外部から製品にアクセスできるようにする場合は、自動検出された値を外部からアクセス可能なホスト名または IP アドレスで置換します。

- クラウドにインストールする場合、Installer によってクラウドインスタンスの内部 IP アドレスが検出されます。クラウドインスタンスの外部から (たとえば、他の製品を実行している別のクラウドインスタンスから) 製品にアクセスできるようにする場合は、自動検出された値を外部からアクセス可能なホスト名または IP アドレスで置換します。

スクリプトを作成する場合は、自動検出された値または変更された値がスクリプトに保存されます。スクリプトからインストールする場合は、Installer は保存されている値を使用します。

メモ: Software AG ランタイム製品で使用される一部のサードパーティアプリケーションには、インストールディレクトリに空白文字を使用できないという制限があります。そのため、Software AG では空白文字を含まないディレクトリにインストールすることをお勧めします。ただし、Windows システムにインストールする場合、一部の Software AG 設計用製品は Program Files 下にあるディレクトリにインストールできます。これらの製品はインストール時に識別できます。

インストールする製品の選択

ライセンスされており、インストール先のオペレーティングシステムでサポートされている製品のリストが表示されます。

重要: Installer では、オペレーティングシステムの種別は区別されません。製品のシステム要件にリストされているサポート対象の OS 種別にのみ製品をインストールしてください。

製品ツリーの一番上のレベルは製品の名前とリリースを示し、その下のレベルは製品を構成するアイテム、またはその製品に関連するアイテムを示しています。指定したインストールディレクトリに既にインストールされているアイテムは、アイテム名の前にカッコで囲まれた文字 I (つまり **[I]**) が表示されます。

Installer でツリーに一度に表示される行の数は限られています。ツリーの次のページに進むには、プラス記号 (+) を入力します。ツリーの前のページに戻るには、マイナス記号 (-) を入力します。特定の製品またはアイテムを検索するには、「S」を入力してから、製品またはアイテム名を入力します。条件に一致する次の製品またはアイテムを検索するには、もう一度「S」を入力します。

製品は以下の方法を任意に組み合わせて選択できます。ツリーで選択した製品およびアイテムの隣に **[X]** が表示されます。

- 適切な番号を入力して、標準インストールリストから、標準開発インストールを選択します。インストールを構成する製品が自動的に選択されます。

メモ: ツリーの次のページに進むまで、選択内容は確認できません。

- 製品見出しの隣に示された番号を入力して、ツリー内の各製品を選択します。番号は 1 行に 1 つずつ入力します。選択した製品のために、同じマシンにインストールする必要がある製品が他にある場合は、Installer によって、以下のことが実行されます。
- Empower からインストールする場合は、必要な製品が自動的に選択されます。

メモ: 後で製品を選択解除した場合でも、その製品に必要な製品が自動的に選択解除されることはありません。選択されている必要な製品のすべてを自動的に選択解除するには、ツリーですべての製品を選択解除し、インストール製品を選択し直してください。

- イメージを作成するときには、必要な製品のリストが表示され、ダウンロードしてイメージに含めるかどうかを尋ねられます。必要な製品がターゲットインストールディレクトリに存在しない場合は、イメージに含める必要があります。そのようにしない場合、そのイメージからインストールしようとする、インストールが失敗します。

メモ: 選択した製品には他の製品が必要であるが、他のマシンにインストールされていても問題ない場合、それらの製品は自動的に選択されず、リストにも表示されません。

選択が終了したら、Enter キーを 2 回押します。

インストールする Language Pack の選択

インストールする製品、または既にインストールされている製品に使用可能な Language Pack がある場合は、インストールする Language Pack の選択を求められます。多くの製品では複数の言語がサポートされます。Language Pack はいくつでもインストール可能であり、ユーザはインストールした全言語 (デフォルトの米国英語を含む) を使用できます。

ライセンス許諾書の確認

ライセンス許諾書を読み、記載事項を承諾するか否かを選択します。サードパーティのライセンス許諾書を読むには、インターネットアクセスが必要です。インターネットにアクセスできない場合は、インターネットにアクセスできるマシンに移動し、ブラウザで「<http://documentation.softwareag.com/legal>」と入力します。

製品の設定

インストールする製品で値の設定が必要な場合は、設定情報を求められます。製品設定の詳細については、該当する製品のインストールマニュアルを参照してください。

確認とインストール

インストール用に選択した製品のリストを確認します。リストが正しい場合は Enter キーを押します。製品と関連アイテムがインストールされます。

インストールイメージの使用

以下のタスクを実行するには、実行するコマンドで、`-console` パラメータの前に、示されているパラメータを指定して、`Installer` を起動します。

重要: `Installer` 以外のツールを使用して、イメージファイルを抽出または変更しないでください。

イメージの作成

インストールイメージを作成するには、コマンドで `-writeImage` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-writeImage full_path_to_new_image_file -console
```

イメージには、オペレーティングシステムで許可されている任意のファイル名を指定できます。拡張子は指定しないでください。Installer によって自動的に `.zip` が追加されます。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。

デフォルトでは、Installer が実行されているオペレーティングシステムのイメージが作成されます。別のオペレーティングシステムのイメージを作成する場合は、コマンドで `-imagePlatform` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-writeImage full_path_to_new_image_file -imagePlatform operating_system -console
```

`operating_system` では、イメージを作成するオペレーティングシステムを指定します。以下に、`operating_system` の有効な値を示します。

| オペレーティングシステム | <code>operating_system</code> の値 |
|-------------------------------------------|----------------------------------|
| Apple Mac OS X | OSX |
| HP HP-UX Intel Itanium 2 | HP11IT |
| HP HP-UX PA-RISC | HP11 |
| Linux RHEL および SLES IBM System z | LNXS390X |
| Linux RHEL および SLES x86 | LNX |
| Linux RHEL および SLES x86-64 (EM64T、AMD64) | LNXAMD64 |
| Microsoft Windows x86 | WNT |
| Microsoft Windows x86-64 (EM64T、AMD64) | W64 |
| Oracle Solaris SPARC | SOL |
| Oracle Solaris x86-64 (EM64T、AMD Opteron) | SOLAMD64 |

45 ページの「プロキシサーバを使用したインストール」に進みます。その節とそれ以降の節で説明するすべてのプロンプトが表示されます。ただし、インストールディレクトリパネルと製品設定パネルは、イメージからインストールするときに表示されます。

重要: イメージにダウンロードする製品を選択すると、選択した製品に必要な追加製品が表示されます。これらの必要な製品がターゲットインストールディレクトリにまだ存在しない場合は、イメージに含める必要があります。含めないと、選択した製品がインストールできなくなり、場合によっては、インストール全体が失敗することになります。これには Java パッケージがあります。Java パッケージがターゲットインストールディレクトリに存在しない場合は、イメージに含める必要があります。Installer によって、すべてのイメージにライセンス許諾書が含まれます。

イメージの内容の表示

イメージの内容をリストするには、コマンドで `-imageContents` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-imageContents full_path_to_image_file -console
```

イメージの内容の検証

イメージの検証では、欠落しているファイルがないかどうか、すべてのチェックサムが一致しているかどうかを確認されます。イメージの内容を検証するには、コマンドで `-validateImage` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-validateImage full_path_to_image_file -console
```

イメージからのインストール

インストールイメージからインストールするには、コマンドで `-readImage` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-readImage full_path_to_existing_image_file -console
```

既存のイメージを使用した製品インストールまたはイメージ作成の迅速化

以下のタスクを実行するには、実行するコマンドで、`-console` パラメータの前に、示されているパラメータを指定して、Installer を起動します。

- 製品を迅速にインストールするには、コマンドで `-existingImages` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-existingImages existing_image_files -console
```

- イメージを迅速に作成するには、コマンドで `-existingImages`、`-writeImage` および `-imagePlatform` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm {jar|zip|dmg}
-existingImages existing_image_files -writeImage -imagePlatform -console
```

`existing_image_files` には、以下に説明するように、必要な製品が含まれている既存のイメージを指定します。作成されたイメージのオペレーティングシステムは関係ありません。

- イメージファイルの完全パスを指定できます。次に例を示します。
`-existingImages /opt/myImages/IS_HPUX.zip,/opt/myImages/Designer_Solaris.zip`
- イメージファイルを含むディレクトリを指定できます。次に例を示します。
`-existingImages /opt/myImages/MyImages`
- イメージファイルをテキストファイルにリストできます。次に例を示します。

```
/opt/myImages/IS_HPUX.zip
/opt/myImages/Designer_Solaris.zip
/opt/myImages/MwS_Windows.zip
```

次に、ファイルを指定します。次に例を示します。

```
-existingImages /opt/listofimages.txt
```

メモ: イメージファイル以外のファイルを指定した場合は、Installer によって無視されます。

インストールスクリプトの使用

以下のタスクを実行するには、実行するコマンドで、`-console` パラメータの前に、示されているパラメータを指定して、Installer を起動します。

スクリプトの作成

インストールスクリプトを作成するには、以下のいずれかのコマンドを実行します。スクリプトには、オペレーティングシステムで許可されている任意のファイル名を指定できます。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。

- インストールスクリプトを作成し、ローカルマシンに製品をインストールするには、コマンドで `-writeScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm {jar|zip|dmg}
-writeScript full_path_to_new_script_file -console
```

- インストールスクリプトを作成し、ローカルマシンに製品をインストールしない場合は、コマンドで `-editScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm {jar|zip|dmg}
-editScript full_path_to_new_script_file -console
```

- Empower からではなくイメージからインストールする独自のインストールスクリプトを作成するには、コマンドで `-readImage` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm {jar|zip|dmg}
[-writeScript|-editScript] full_path_to_new_script_file
```

```
-readImage full_path_to_existing_image_file -console
```

- 既存のスクリプトからインストールスクリプトを作成するには、コマンドで `-readScript` および `-writeScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-readScript full_path_to_existing_script_file
-writeScript full_path_to_new_script_file -console
```

既存のスクリプトの編集

重要: テキストファイルを開いて手でスクリプトを編集しないでください。

既存のインストールスクリプトを編集するには、コマンドで `-editScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-editScript full_path_to_existing_script_file -console
```

Mac OS X システム、その他の UNIX システムまたは Windows システムでのスクリプトからのインストール

インストールスクリプトからインストールするには、コマンドで `-readScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-readScript full_path_to_existing_script_file
```

ヘッドレスシステムにインストールする場合を除き、Installer は、デフォルトではウィザードモードで実行されます。ヘッドレスシステムにインストールする場合、Installer はコンソールモードで実行されます。

重要: スクリプトを Empower から作成した場合は、スクリプトで参照される製品リリースが Empower で使用できる必要があります。使用できない場合、スクリプトは失敗します。スクリプトをイメージから作成した場合は、イメージがスクリプトを作成したときの場所に存在している必要があります。存在しない場合、スクリプトは失敗します。

モニタを搭載したシステムにインストールし、コンソールに出力を表示する場合は、`-console` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-readScript full_path_to_existing_script_file -console
```

HTTP または Socks プロキシサーバを介してインターネットに接続している場合、そのプロキシサーバを使用してインストールを行う必要があります。スクリプトを作成するときにプロキシ情報を指定した場合は、ユーザ名とパスワードを除くすべての設定がスクリプトに保存されています。保存されている設定を上書きする場合、またはスクリプトの作成時にプロキシ情報を指定しなかった場合は、以下のように適切なパラメータを指定します。

- Installer で HTTP プロキシサーバを使用するには、コマンドで次のパラメータを指定します。

```
-proxyHost host -proxyPort port -proxyUser user -proxyPass password
```

- Installer で Socks プロキシサーバを使用するには、コマンドで次のパラメータを指定します。

```
-socksProxyHost host -socksProxyPort port
```

次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg} -socksProxyHost host
-socksProxyPort port -readScript full_path_to_existing_script_file -console
```

メモ: Windows システムにインストールしようとしていて、リモートからログインしている場合、Windows のグラフィックサブシステムで問題が発生する場合があります。コマンドの最初のパラメータとして `-Djava.awt.headless=true` を追加してみてください。これは、実際に問題が発生した場合にのみ行ってください。Installer を Windows システムで headless アプリケーションとして設定すると、Java の既知の問題が発生する場合があります (Oracle のバグ JDK-6607186 を参照)。

デフォルトでは、Installer はスクリプトの正常実行後すぐに終了します。代わりにスクリプトの完了後にいつ終了するかを選択できるようにするには、コマンドの最後に `-scriptNoExit` パラメータを指定します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合、インストールは失敗します。デフォルトでは、Installer はエラーを表示しますが、終了はしません。ゼロ以外の終了値を指定してすぐに終了するには、コマンドの最後に `-scriptErrorInteract no` パラメータを指定します。エラーを表示し、指定した秒数だけ一時停止した後に終了するには、コマンドの最後に `-scriptErrorInteract number_of_seconds` パラメータを指定します。

イメージ生成スクリプトからの複数のオペレーティングシステム用イメージの生成

以下のタスクを実行するには、実行するコマンドで、`-console` パラメータの前に、示されているパラメータを指定して、Installer を起動します。`operating_system` に有効な値のリストについては、[48 ページの「イメージの作成」](#) を参照してください。

イメージ生成スクリプトの作成

イメージ生成スクリプトを作成するには、コマンドで `-writeImageScript` および `-imagePlatform` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-writeImageScript full_path_to_new_image_generation_script_file
-imagePlatform operating_system -console
```

イメージ生成スクリプトには、オペレーティングシステムで許可されている任意のファイル名を指定できます。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。`operating_system` で、イメージを生成する製品を最も多くサポートするオペレーティングシステムを指定します。ほとんどの製品で、そのようなオペレーティングシステムは Microsoft Windows 64 ビット (W64) です。

イメージの生成

1. イメージ生成スクリプトからインストールイメージを生成するには、コマンドで `-readImageScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
```

```
-readImageScript full_path_to_existing_image_generation_script_file
full_path_to_new_image_file
-console
```

イメージには、オペレーティングシステムで許可されている 任意のファイル名を指定できます。拡張子は指定しないでください。Installer によって自動的に拡張子 .zip が追加されます。ファイルの保存先ディレクトリは、既に存在している必要があります。

デフォルトでは、Installer が実行されている .オペレーティングシステムのイメージが生成されます。別のオペレーティングシステムの イメージを生成する場合は、コマンドで `-imagePlatform` パラメータを 指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyymm.{jar|zip|dmg}
-readImageScript full_path_to_existing_image_generation_script_file
full_path_to_new_image_file
-imagePlatform operating_system -console
```

通常のイメージ作成ステップに従って、製品の選択などを行います。

2. 前の手順を繰り返して、その他のオペレーティングシステム用のイメージを作成します。

メモ: これらのイメージの生成にユーザの入力は不要です。したがって、これらのイメージの生成は必要に応じて自動化できます。

重要: Installer 以外のツールを使用して、イメージファイルを抽出または変更しないでください。

ログオプションの変更

以下のタスクを実行するには、実行するコマンドで、`-console` パラメータの前に、示されているパラメータを指定して、Installer を起動します。

| オプション | 説明 | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|---|-----------|-------|-------|-------|----------|---------|------------------------|------|-------------------------|---------|
| <code>-debugLvl level</code> | ログに記録する情報量。有効な値は以下のとおりです。 | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>ログに記録する情報量</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>致命的なエラーのみ</td> <td>fatal</td> </tr> <tr> <td>エラーのみ</td> <td>error</td> </tr> <tr> <td>エラーおよび警告</td> <td>warning</td> </tr> <tr> <td>エラー、警告、情報メッセージ (デフォルト)</td> <td>info</td> </tr> <tr> <td>すべて: 10~200 MB のファイルを生成</td> <td>verbose</td> </tr> </tbody> </table> | ログに記録する情報量 | 値 | 致命的なエラーのみ | fatal | エラーのみ | error | エラーおよび警告 | warning | エラー、警告、情報メッセージ (デフォルト) | info | すべて: 10~200 MB のファイルを生成 | verbose |
| ログに記録する情報量 | 値 | | | | | | | | | | | | |
| 致命的なエラーのみ | fatal | | | | | | | | | | | | |
| エラーのみ | error | | | | | | | | | | | | |
| エラーおよび警告 | warning | | | | | | | | | | | | |
| エラー、警告、情報メッセージ (デフォルト) | info | | | | | | | | | | | | |
| すべて: 10~200 MB のファイルを生成 | verbose | | | | | | | | | | | | |

| オプション | 説明 |
|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>情報なし (つまり、情報はログに記録されない) none</p> |
| <p>-debugFile debug_file</p> | <p>ログ情報を含むファイルの完全パス。デフォルトは <i>Software AG_directory/install/logs/installLog.txt</i> です。</p> |
| <p>-maxLogSize numberm</p> | <p>ログ情報を含むファイルの最大サイズ (MB)。ファイルが指定したサイズに達した場合、2 つ目のファイル (<i>installLog_part2.txt</i>)、次に 3 つ目のファイル (<i>installLog_part3.txt</i>)、というようにファイルへの書き込みが開始され、10 個目のファイル (<i>installLog_part10.txt</i>) まで書き込まれます。その後、最初のファイル、次に 2 つ目のファイル、というようにファイルが上書きされます。ログファイルのデフォルトの最大サイズは 250 MB です。</p> |
| <p>-debugOut</p> | <p>ログ情報を標準出力とファイルに書き込む。</p> |
| <p>-debugErr</p> | <p>ログ情報を標準エラーとファイルに書き込む。</p> |
| <p>-debug level</p> | <p>-debugErr -debugLvl level を指定する略式の方法。</p> |

5 アンインストール

| | |
|------------------------------------------------------|----|
| ■ 概要 | 56 |
| ■ 操作を開始する前に | 56 |
| ■ Uninstaller の起動 | 57 |
| ■ ローカルマシンまたはリモートマシンにある選択した製品のアンインストール | 57 |
| ■ ローカルマシンまたはリモートマシンからのすべての製品のユーザ入力なしでのアンインストール | 57 |
| ■ スクリプトを使用したアンインストール | 59 |
| ■ Windows の使用上の注意 | 60 |

概要

この章では、Software AG Uninstaller を使用して製品をアンインストールする方法について説明します。この章ではアンインストールの一般的な方法について説明しますが、製品によっては追加の手順が必要になることがあります。製品固有の手順については、製品インストールガイドを参照してください。

操作を開始する前に

1. アンインストールを行うマシン上で稼働している Software AG 以外のすべてのアプリケーションをシャットダウンします。これらのアプリケーションをシャットダウンしないと、オペレーティングシステムによってロックされている重要なファイルが Uninstaller によって削除されません。
2. オペレーティングシステムによってロックされている重要なファイルを Uninstaller が削除できるように、アンインストールするすべての Software AG 製品、および同じインストールディレクトリで実行中のその他すべての Software AG 製品をシャットダウンする必要があります。手順については、製品マニュアルを参照してください。
3. 製品をインストールしたときと同じユーザでマシンにログオンします。
4. Mac OS X またはその他の UNIX システムからアンインストールするときに、アンインストールする製品がリモートマシンに存在する場合は、次の手順に従ってください。
 - a. リモートマシンがローカルマシンの X11 ディスプレイにアクセスできるようにします。ローカルマシンが UNIX システムの場合は、コマンド `xhost +remote_machine` を使用できます。ローカルマシンの Windows で X11 エミュレーションが実行されている場合は、エミュレーションソフトウェアでプロパティの設定が必要となる場合があります。
 - b. リモートマシンにログオンし、シェル変数 `DISPLAY` にローカルマシンの X11 ディスプレイの値を設定します。たとえば、`sh` シェル、`ksh` シェルまたは `bash` シェルを使用している場合は、`export DISPLAY=local_machine:0.0` を使用できます。`csh` シェルまたは `tcsh` シェルを使用している場合は、`setenv DISPLAY=local_machine:0.0` を使用できます。
 - c. Uninstaller GUI を起動するときは (57 ページの「Uninstaller の起動」を参照)、同じシェルで起動します。
5. アンインストールする製品からできるだけ多くの修正をアンインストールします(すべての修正をアンインストールできるとは限りません)。手順については、『*Using the Software AG Update Manager*』を参照してください。
6. 対象インストールディレクトリからすべての製品をアンインストールする場合、Uninstaller は `Software AG_directory/install` ディレクトリからすべてのファイルを削除します。ただし、ログと、Installer で管理される `history.txt` ファイルは削除されません。`Software AG_directory/install` ディレクトリに保存したファイルを保持する場合は、このファイルを Software AG ディレクトリとは別のディレクトリに移動します。
7. システムを再起動します。
8. 製品のインストール後に作成されたファイル (ユーザ作成ファイルや設定ファイルなど) は削除されず、ほとんどの場合でそれらのファイルを含むディレクトリ構造も削除されません。これらのファイル

とディレクトリ構造は、アンインストールが完了してから削除できます。同じディレクトリに再インストールする場合は、アンインストールの完了後に製品ディレクトリを削除するか、ファイルを保存しておく場合は移動する必要があります。

Uninstaller の起動

Software AG Uninstaller は、Software AG Installer のダウンロード時に自動的にダウンロードされています。以下の手順に従って Software AG Uninstaller を起動します。

| システム | モード | 手順 |
|-----------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Windows | GUI | [プログラムの追加と削除] または [プログラムと機能] コントロールパネル (オペレーティングシステムによって異なる) を開き、アンインストールする製品が含まれているインストールディレクトリのエントリ (たとえば、Software AG Products <i>releaseinstallation_directory</i>) を選択します。 |
| Mac OS X またはその他の UNIX | GUI | コマンドウィンドウを開き、アンインストールする製品が含まれているインストールディレクトリの <i>Software AG_directory/bin</i> ディレクトリに移動して、コマンド <code>uninstall</code> を実行します。 |
| Mac OS X またはその他の UNIX | Console | コマンドウィンドウを開き、アンインストールする製品が含まれているインストールディレクトリの <i>Software AG_directory/bin</i> ディレクトリに移動して、コマンド <code>uninstall -console</code> を実行します。 |

Uninstaller の外観は Software AG Installer とほとんど同じです。Installer で変更できるものと同じログオプションを変更できます。

ローカルマシンまたはリモートマシンにある選択した製品のアンインストール

1. 製品選択ツリーで、アンインストールする製品を選択します。

他の製品に必要な製品を選択した場合は、それらの製品もアンインストールされることを示す警告が表示されます。他の製品をアンインストールしない場合は、それらの製品に必要な製品の選択を解除します。

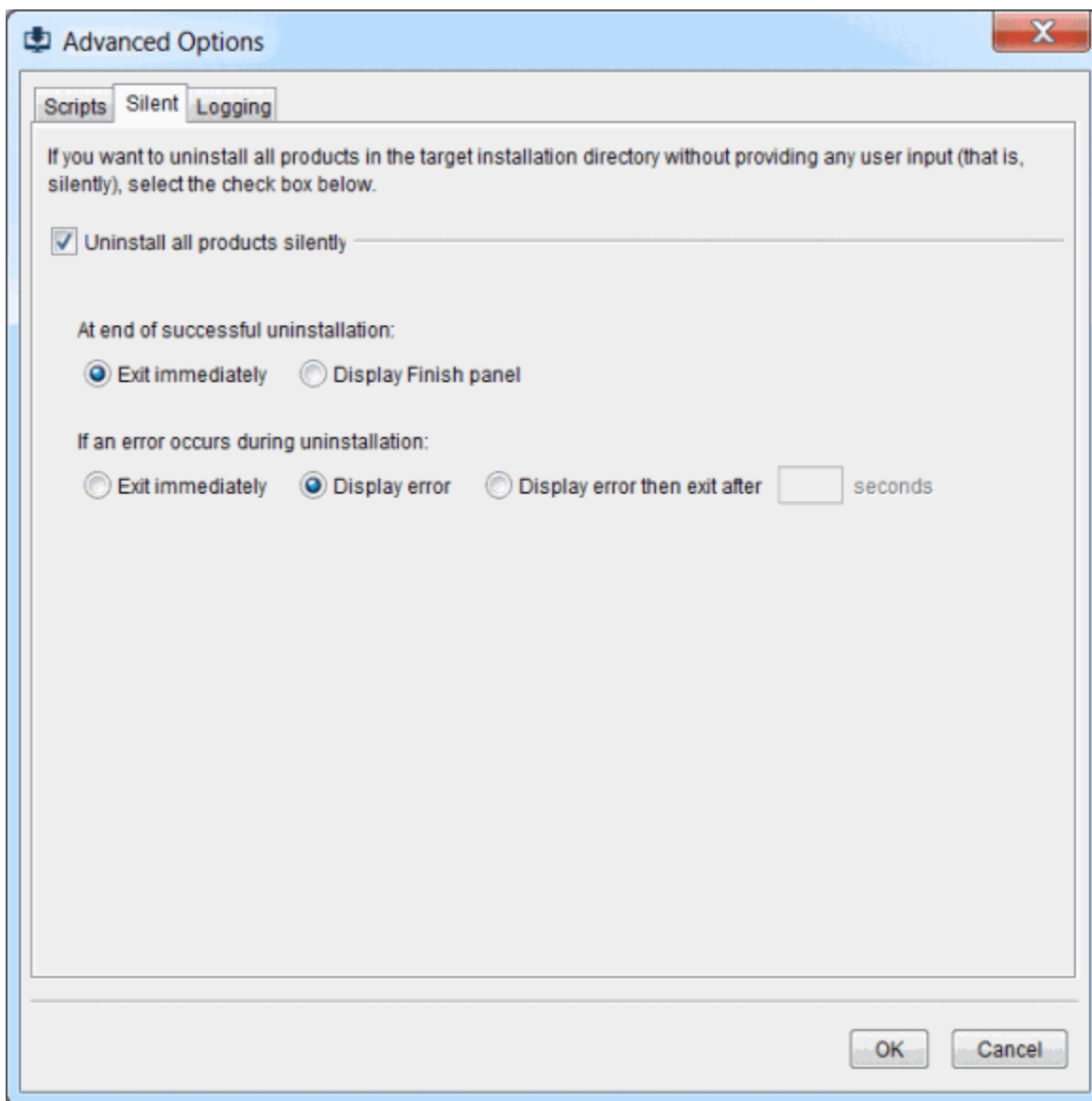
2. アンインストールが完了するまで、Uninstaller の処理を続行します。

ローカルマシンまたはリモートマシンからのすべての製品のユーザ入力なしでのアンインストール

以下に、ローカルまたはリモートのインストールディレクトリにあるすべての製品を、ユーザ入力なし (サイレントモード) でアンインストールする手順を示します。

GUI モードでのすべての製品のサイレントアンインストール

最初のパネルで [Advanced Options] をクリックし、次に [Silent] タブをクリックします。



1. [Uninstall all products silently] チェックボックスをオンにします。
2. デフォルトでは、Uninstaller はすべての製品の正常アンインストール後すぐに終了します。終了するよう選択するまで [Finish] パネルを表示するには、[Display Finish panel] を選択します。

3. 製品のアンインストール中にエラーが発生した場合、アンインストールは失敗します。デフォルトでは、Uninstaller はエラーを表示しますが、終了はしません。代わりに **[Exit immediately]** または **[Display error then exit after *number_of_seconds* seconds]** を選択できます。

コンソールモードでのすべての製品のサイレントアンインストール

コンソールモードですべての製品をサイレントにアンインストールできます。Uninstaller を起動するために実行するコマンドで、`-readUninstallScript` パラメータを以下のように指定します。

```
uninstall -readUninstallScript -console
```

デフォルトでは、Uninstaller はスクリプトの正常実行後すぐに終了します。代わりにスクリプトの完了後にいつ終了するかを選択できるようにするには、コマンドの最後に `-scriptNoExit` パラメータを指定します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合、アンインストールは失敗します。デフォルトでは、Uninstaller はエラーを表示しますが、終了はしません。ゼロ以外の終了値を指定してすぐに終了するには、コマンドの最後に `-scriptErrorInteract no` パラメータを指定します。エラーを表示し、指定した秒数だけ一時停止した後に終了するには、コマンドの最後に `-scriptErrorInteract number_of_seconds` パラメータを指定します。

スクリプトを使用したアンインストール

GUI モードでのスクリプトを使用したアンインストール

最初のパネルで **[Advanced Options]** をクリックし、次に **[Scripts]** タブをクリックします。

GUI モードでスクリプトを使用して作成、編集およびアンインストールを実行するステップは、GUI モードでスクリプトを使用して作成、編集およびインストールを実行するステップと同じです。手順については、『[36 ページの「GUI を使用したスクリプトからのインストール」](#)』を参照してください。

コンソールモードでのスクリプトを使用したアンインストール

以下のタスクを実行するには、Uninstaller の起動を実行するコマンドで、示されているパラメータを指定します。

スクリプトの作成

- アンインストールスクリプトを作成し、ローカルマシンから製品をアンインストールするには、コマンドで `-writeUninstallScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
uninstall -writeUninstallScript full_path_to_new_script_file -console
```

- アンインストールスクリプトを作成し、ローカルマシンから製品をアンインストールしない場合は、コマンドで `-editUninstallScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
uninstall -editUninstallScript full_path_to_new_script_file -console
```

- 既存のスクリプトをテンプレートとして使用してアンインストールスクリプトを作成するには、コマンドで `-readUninstallScript` および `-writeUninstallScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
uninstall -readUninstallScript full_path_to_existing_script_file
          -writeUninstallScript full_path_to_new_script_file -console
```

既存のスクリプトの編集

既存のアンインストールスクリプトを編集するには、コマンドで `-editUninstallScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
uninstall -editUninstallScript full_path_to_existing_script_file -console
```

スクリプトを使用したアンインストール

Windows システムでスクリプトを使用してアンインストールする場合は、Software AG から電子メールで送信されるインストール手順に従って UNIX 用の Installer をダウンロードし、32 または 64 ビットの JRE をインストールします。サポートされている JDK の詳細については、Software AG Documentation Website で製品のシステム要件を参照してください。

他のシステムでアンインストールスクリプトを使用してアンインストールするには、コマンドで `-readUninstallScript` パラメータを指定します。次に例を示します。

```
java -jar SoftwareAGInstalleryyyyymm.{jar|zip}
     -readUninstallScript full_path_to_existing_script_file
     -installDir full_path_to_installation_directory -console
```

デフォルトでは、Uninstaller はスクリプトの正常実行後すぐに終了します。代わりにスクリプトの完了後にいつ終了するかを選択できるようにするには、コマンドの最後に `-scriptNoExit` パラメータを指定します。

スクリプトの実行中にエラーが発生した場合、アンインストールは失敗します。デフォルトでは、Uninstaller はエラーを表示しますが、終了はしません。ゼロ以外の終了値を指定してすぐに終了するには、コマンドの最後に `-scriptErrorInteract no` パラメータを指定します。エラーを表示し、指定した秒数だけ一時停止した後に終了するには、コマンドの最後に `-scriptErrorInteract number_of_seconds` パラメータを指定します。

Windows の使用上の注意

Windows の [プログラムの追加と削除] または [プログラムと機能] コントロールパネル (オペレーティングシステムによって異なる) では、インストール後のクリーンアップ処理を行っている間は、アンインストール後もアンインストールした製品が含まれているインストールディレクトリのエントリ (たとえば、Software AG Products *releaseinstallation_directory*) がしばらく表示され続けることがあります。

Windows Vista、2008、または 7 システムからアンインストールする場合、[プログラム互換性アシスタント] ダイアログボックスが開いて、「このプログラムは正しくアンインストールされなかった可能性があります」と通知されることがあります。[このプログラムは正しくアンインストールされました] オプションを選択します。